

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

**平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 早稲田大学 2 大学名 早稲田大学

3 研究組織名 総合人文科学研究センター

4 プロジェクト所在地 戸山キャンパス33号館低層棟(6・7F)

5 研究プロジェクト名 近代日本の人文学と東アジア文化圏—東アジアにおける人文学の危機と再生

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
李 成市	文学学術院	教授

8 プロジェクト参加研究者数 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
甚野 尚志	文学学術院・教授	A(人文学の形成) B(近代歴史学の形成)	西欧の人文学及び歴史学の受容に関する問題の解明
飯山 知保	文学学術院・准教授	B(近代歴史学の形成)	東洋史学成立の背景に関する問題の解明
井上 文則	文学学術院・教授	B(近代歴史学の形成)	西欧の実証的歴史学の受容と翻訳に関する問題の解明
河野 貴美子	文学学術院・教授	A(人文学の形成) C(「文学」概念)	東アジアの大学図書館と学問形成、及び「文」と「文学」の展開に関する問題の解明
陣野 英則	文学学術院・教授	C(「文学」概念)	「文」の和文化、及び「文学」化に関する問題の解明
梅森 直之	政治経済学 術院・教授	A(人文学の形成)	明治期の知識人たちの役割に関する問題の解明
橋本 一径	文学学術院・教授	A(人文学の形成)	西欧の学知の受容に関する問題の解明
冬木 ひろみ	文学学術院・教授	C(「文学」概念)	西洋文学の受容と翻訳に関する問題の解明
柳澤 明	文学学術院・教授	B(近代歴史学の形成)	東洋史学成立の背景に関する問題の解明
千野 拓政	文学学術院・教授	東アジア文学・文化研究	文化研究の再検討・再構築(統括)
鳥羽 耕史	文学学術院・教授	日本文学・文化研究	文学研究の再検討・再構築(統括)
藤本 一勇	文学学術院・教授	現代思想研究	思想研究の再検討・再構築(統括)

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

谷口 眞子	文学学術院・教授	日本史研究	歴史研究の再検討・再構築 (統括)
李 成市	文学学術院・教授	アジア史研究	歴史・思想研究の再検討・再構築
草原 真知子	早稲田大学 名誉教授 / UCLA Art Sci Center 客員 研究員	サブカルチャー・メディア研究	文化研究の再検討・再構築
オディール・デュスト	文学学術院・教授	ヨーロッパ文学・文化研究	ヨーロッパから見る日本思想・文学・文化・歴史
藤井 仁子	文学学術院・教授	映画・思想研究	文化・思想研究の再検討・再構築
小沼 純一	文学学術院・教授	音楽・思想研究	文化・思想研究の再検討・再構築
松永 美穂	文学学術院・教授	欧米・日本の文学・文化研究	文化・思想研究の再検討・再構築
高橋 敏夫	文学学術院・教授	日本の文学・文化研究	文化・思想研究の再検討・再構築
貝澤 哉	文学学術院・教授	欧米の文学・メディア研究	文化・思想研究の再検討・再構築
海老澤 衷	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	生活観と国民思想の関係解明
渡邊 義浩	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	漢学から中国学への解明
鶴見 太郎	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	民俗学とアジアの関係解明
十重田 裕一	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	国民国家と文学思想の関係解明
真辺 将之	文学学術院・教授	大学および留学生資料の調査研究とデータベース作成	近代国家と大学・留学生の関係解明
(共同研究機関等) 根占 献一	学習院女子 大学・教授	A(人文学の形成) B(近代歴史学の形成)	西欧の人文学及び歴史学の受容に関する問題の解明
ウィーブケ・デネッケ	ボストン大 学・准教授	C(「文学」概念)	「文」と「文学」の展開に関する問題の解明
ナオキ・サカイ	コーネル大 学・教授	日本思想・文学・文化・歴史研究	アメリカから見る日本思想・文学・文化・歴史
セシル・サカイ	パリ第7大 学・教授	思想・文学・文化・歴史研究	ヨーロッパから見る日本思想・文学・文化・歴史
王 曉明	上海大学・教授	中国の思想・文学・文化・歴史研究	中国から見る日本思想・文学・文化・歴史
王 宏志	香港中文大 学・教授	東アジアの思想・文学・文化・歴史研究	アジアから見る日本思想・文学・文化・歴史
白 永瑞	延世大学校・教授	東アジアの思想・文学・文化・歴史研究	韓国から見る日本思想・文学・文化・歴史
鈴木 正信	文部科学省 教科書調査 官	津田および留学生資料の調査研究とデータベース作成	文献批判と留学生の関係解明
ディヴィッド・ルーリー	コロンビア大 学・准教授	津田の欧米資料と神話学の調査研究	欧米における津田論の解明
崔 光植	高麗大学校・教授	津田資料と韓国留学生の資料調査研究	韓国側資料と留学生の解明

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

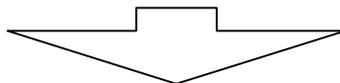
井上 亘	常葉大学 教 育学部教授	津田資料と中国留学生の資料調 査研究	中国側資料と留学生の解明
------	-----------------	-----------------------	--------------

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
B(近代歴史学の形成)	文学学術院・准教授	井上 文則	西欧の実証的歴史学の受容 と翻訳に関する問題の解明

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



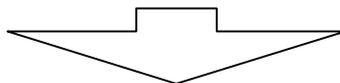
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学学術院・准教授	文学学術院・教授	井上 文則	西欧の実証的歴史学の受容 と翻訳に関する問題の 解明

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
日本史研究	文学学術院・准教授	谷口 眞子	歴史研究の再検討・再構築 (統括)

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



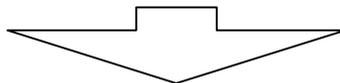
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学学術院・准教授	文学学術院・教授	谷口 眞子	歴史研究の再検討・再構築 (統括)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
映画・思想研究	文学学術院・准教授	藤井 仁子	文化・思想研究の再検討・再構築

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



新

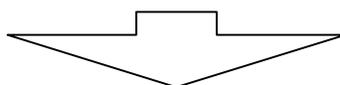
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学学術院・准教授	文学学術院・教授	藤井 仁子	文化・思想研究の再検討・再構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
B(近代歴史学の形成)	高等研究所・准教授	飯山 知保	東洋史学成立の背景に関する 問題の解明

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011



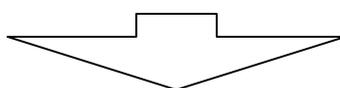
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
高等研究所・准教授	文学学術院・准教授	飯山 知保	東洋史学成立の背景に関する問題の解明

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
津田および留学生資料の調査研究とデータベース作成	滋賀大学・准教授	鈴木 正信	文献批判と留学生の関係解明

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



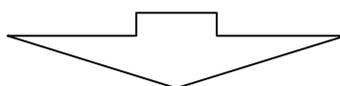
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
早稲田大学・高等研究所 准教授(任期付き)	文部科学省 教科書調査官	鈴木 正信	文献批判と留学生の関係解明

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
津田の留学生資料の調査研究	東京成徳大学・教授	増尾 伸一郎	津田とアジア留学生の関係解明

(変更の時期:平成 26 年 7 月 25 日)



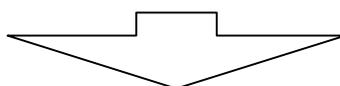
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
なし	なし	なし	なし

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
津田資料と中国留学生の資料調査研究	北京大学 教授	井上 亘	中国側資料と留学生の解明

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



新

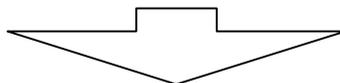
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
北京大学 教授	常葉大学 教育学部教授	井上 亘	中国側資料と留学生の解明

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
A(人文学の形成)	文学学術院・准教授	橋本 一徑	西欧の学知の受容に関する問題の解明

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



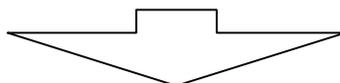
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学学術院・准教授	文学学術院・准教授	橋本 一徑	西欧の学知の受容に関する問題の解明

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
津田資料と留学生の調査研究と統括	早稲田大学文学学術院・教授	新川 登亀男	事実史と思想史の関係解明

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



新

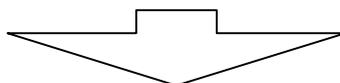
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
なし	なし	なし	なし

(早稲田大学定年退職(平成 30 年 3 月 31 日付)に伴い、研究プロジェクトから除外)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
サブカルチャー・メディア研究	早稲田大学文学学術院・教授	草原 真知子	文化研究の再検討・再構築

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
早稲田大学文学学術院・教授	早稲田大学名誉教授/UCLA Art Sci Center 客員研究員 (Visiting Scholar)	草原 真知子	文化研究の再検討・再構築

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日中、日韓の関係は半世紀のタイムスパンでも最悪と言われる。その状況下で相互信頼の精神的基盤として人文学に寄せられる期待は大きい。日中、日韓の軋轢の原因には「歴史認識問題」が挙げられるが、その基底にあるのは近代日本が構築した国民主義的歴史学であり、中国、韓国の歴史学はそれらの知的基盤を日本から受容した。つまり、歴史学と共に国民文学や思想史を含めて、東アジアの人文学は近代国民国家の形成期に帝国主

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

義的な発展を遂げた日本の学知をモデルに成立したと言える。しかし、国家の枠組が衰退した現在、国民意識形成のための人文学がもはや存在理由を失っていることは、レディングズ『廃墟のなかの大学』(1996)が説いたとおりである。にも拘わらず、相互に知的範型を共有している東アジア文化圏では、その危機感が薄く問題の所在が不明確である。このような知見に立って、東アジアの人文学をリードしてきた日本の人文学を検証し、これからの時代に相応しい新たな人文学の創出(復興・再生)を提唱する。

(2) 研究組織

【全体像・研究代表者の役割・各研究者の役割分担や責任体制】本プロジェクトは以下の3つの研究テーマが設けられている。

【グループ1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証 (11名)

【グループ2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて (17名)

【グループ3】早稲田大学と東アジア—人文学の再生に向かって— (10名)

各グループは、人文学の基礎をなす日本史・日本文学、西洋史・西洋文学、東洋史・東洋哲学の各分野の研究者による領域横断チームで編成されている。各グループには研究リーダーを配置し、グループ内の研究活動に伴う予算の申請・執行、研究進捗の管理について責任を負っている。その上で研究代表者がこの3グループを総括し、融合させる役割を担う。

【大学院生・PD および RA の人数活用状況】データベース作成、シンポジウム運営、文献収集・翻訳、資料整理等で延べ40名ほどが従事しており、研究活動を通じた教育的価値に繋がっている。

【研究支援】本プロジェクトの研究組織である「総合人文科学研究センター」は、母体である「文学学術院」の附置研究所となり、研究施設・研究費の管理はこの「文学学術院」の事務職員および、全学の研究活動の支援部局となる当学研究推進部が行っている。

【チーム間の連携状況】研究代表者を頂点に、3グループの研究リーダーと研究支援を行う事務職員により、定期的にチーム間の連携状況を確認している。

【共同研究機関等との連携】調査、国際シンポジウム、共同執筆・出版を通じた共同研究を韓国・中国・台湾・米国等の海外連携機関(高麗大学校、延世大学校、北京大学、香港中文大学、国立台湾大学、コロンビア大学、コーネル大学ほか)と実施し、領域・世代・国を超えたオープンな研究体制を構築している。中でも2009年より中国の清華大学・南開大学、韓国の漢陽大学、台湾の国立台湾大学と学術交流協定を結び、持ち回りで人文学に関わる国際人文学フォーラム「東アジア人文学フォーラム」を実施されており、各グループに所属する研究者が参加していることは特筆すべき点となる。また「総合人文科学研究センター」による年次シンポジウムや、国際シンポジウムの開催を通して、共同研究機関や研究メンバーとの連携の機会となっている。

(3) 研究施設・設備等

本プロジェクトの中核をなす「総合人文科学研究センター」の関連施設は、2014年10月に建て替えが完了した当学戸山キャンパス(東京都新宿区戸山1-24-1)33号館低層棟6階・7階(491㎡)を中心としたものになる。TV会議システム等を整備し、海外研究者との打ち合わせに利用される「国際会議室」や、招聘研究者用の研究スペースである「共同研究室」はここに含まれる。またこの他にも33号館高層棟および39号館にある個別研究室を利用している。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

■ <現在までの進捗状況及び達成度>

研究期間初年度である2014年度には当研究の柱として形成された3つのグループ全体で、基盤形成事業全体に関連するキックオフ・シンポジウム「新しい人文学の地平を求めて—ヨーロッパの学知と東アジアの人文学—」(2014年12月6日)を開催した。このシンポジウムでは、日本と東アジア世界でこれまで通用してきた人文学の危機の現状を確認し、人文学の新たな再生の方向を探るべく、日本の人文学の基盤となったヨーロッパの人文学のあり方を問い、それを基軸に、東アジアの人文学が抱える問題について議論した。とくに基調報告では、近代ヨーロッパの人文学の本質が、人間の「認識されたものの認識」、すなわち人間精神が生み出したテキストの読解・解釈にあるという視点が提示され、その上で、人文知は自然科学的な科学的知ではなく、「人間形成に照準を合わせた学知」であらねばならないという指摘がなされた。この基調報告に対し、シンポジウムではヨーロッパ地域と東アジア地域の人文学の研究者がそれぞれの立場からコメントを行った。

また研究期間最終年度である2018年度には本研究の成果を自己評価、点検することを目的としてシン

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

ポジウム「新しい人文学への展望—過去・現在・未来—」(2018年12月22日)を開催した。このシンポジウムでは、進捗状況及び達成度を明示するために、中間評価者を招き、その後の研究成果の詳細な報告を行うと共に、3グループの研究成果に対する方法論的な課題を総合する発表を行い、成果に対するメタレベルの議論を行った。

[グループ1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

グループ1では、プロジェクトの活動を推進するために以下のA~Cの三つの班を形成し、研究を遂行することにした。

A班は、「西欧文明の東アジア世界への接続」を共通テーマに掲げ、日本史、東洋史、西洋史、思想史などの様々な分野をわたって、学際的な共同研究を遂行する班である。B班は、「ユーラシア歴史世界の再構成」を共通テーマに掲げ、歴史学とくに東洋史と西洋史の分野の研究者による共同研究を行う班である。C班は、「東アジア世界における人文学の伝統と変容」をテーマに掲げ、日本文学、ヨーロッパ文学、日本思想史、表象・メディア論の研究者が主体となる班である。このような三つの班を作ったが、三つの研究班は随時協力して研究会やシンポジウムを開催することも確認した。

A班の企画としては、シンポジウム「近世のキリスト教布教と東アジア」(コーディネーター: 甚野尚志、2015年3月4日)を行い(*1-105)、C班の企画としては、「東アジアから1968年を見つめ直す」(コーディネーター: 梅森直之、2014年11月8日)を行った(*1-92)。2014年度にはこの他にも、研究分担者による海外での研究報告、招聘研究者の講演会なども行ったが、これらの活動を通じ、グループ1のテーマである「近代日本と東アジアに成立した人文学の検証」について、その問題の所在を明確にできた。2015年度にはB班の企画として、シンポジウム「世界史のなかのユダヤ人」(コーディネーター: 甚野尚志、2015年10月3日)、シンポジウム「朝河貫一と日本中世史研究の現在」(コーディネーター: 海老澤衷、甚野尚志、2015年12月5日)(*1-49,1-104)、シンポジウム「通商・巡礼・亡命:17世紀~20世紀初頭の中央ユーラシアにおける超境界活動」(コーディネーター: 柳澤明、2016年3月12日)を行い(*1-149)、日本の近代歴史学が形成してきた歴史学の時代区分、地域の枠組み、分析概念の問題点を、日本史、西洋史、東洋史の領域を横断する形で明確にすることができた。またC班の企画として、シンポジウム「美術批評とアジア—同時代性と植民地性」(コーディネーター: 橋本一径、2016年2月6日)を行ったが(*1-47,153,42)、そこでは、明治期以来、日本のみならず東アジアの諸国が、西洋美術とそれぞれ取り結んできた関係を見つめ直すことができた。また、シンポジウム「日本「文」学史ワークショップ「文」と人びと——継承と断絶」(コーディネーター: 河野貴美子、陣野英則、2016年3月27日)では、日本の文学史において東アジア的な「文」の概念をいかに再評価すべきか、という問題について一定の見通しを得ることができた(*1-45,51,53,58)。また2016年1月には、日本以外の東アジアで人文学研究がどのような問題を抱えているのかを比較検討すべく、国立台湾大学でワークショップを開催し、台湾の人文学研究者との対話を試みた。

2016年度はA班の企画として、「イタリア中世・ルネサンスの政治思想」に関するシンポジウム(コーディネーター: 甚野尚志、2016年9月17日)を開催し(*1-70)、ルネサンス思想が日本の人文学にどのように受容されたかを討議することができた。またB班の企画としては、シンポジウム「モンゴル帝国継承国家論の再検討」(コーディネーター: 柳澤明、2016年7月9日)を行い(*1-97)、モンゴル史、中央ユーラシア史の枠組みの再検討を行った。C班の企画としては、シンポジウム「記憶と文化」(コーディネーター: 梅森直之、2016年7月18,19日)を行い(*1-92)、沖縄の歴史と人々の記憶を問い直し、またシンポジウム「アジアのシェイクスピア受容」(コーディネーター: 冬木ひろみ、2017年1月7日)では、東アジア世界でシェイクスピアの受容を問い直した。さらに、「グローバル時代のアートと翻訳」(コーディネーター: 橋本一径、2017年3月27日)は、前年度のシンポジウム「美術批評とアジア」を発展させ、東アジアの美術批評の独自性を分析した。このような3年間の活動を通じ、グループ1の当初の計画を遂行することができた。

2016年度はA班の企画として、「イタリア中世・ルネサンスの政治思想」に関するシンポジウム(コーディネーター: 甚野尚志、2016年9月17日)を開催し(*1-26,57,94)、ルネサンス思想が日本の人文学にどのように受容されたかを討議することができた。またB班の企画としては、シンポジウム「モンゴル帝国継承国家論の再検討」(コーディネーター: 柳澤明、2016年7月9日)を行い(*1-97)、モンゴル史、中央ユーラシア史の枠組みの再検討を行った。C班の企画としては、シンポジウム「記憶と文化」(コーディネーター: 梅森直之、2016年7月18,19日)を行い(*1-58)、沖縄の歴史と人々の記憶を問い直し、またシンポジウム「アジアのシェイクスピア受容」(コーディネーター: 冬木ひろみ、2017年1月7日)では、東アジア世界でシェイクスピアの受容を問い直した。さらに、「グローバル時代のアートと翻訳」(コーディネーター: 橋本一径、2017年3月27日)は、前年度のシンポジウム「美術批評とアジア」を発展させ、東アジアの美術批評の独自性を分析した。

2017年度はA班の企画として、ワークショップ「ユーラシア史研究への新しい視角」(コーディネーター: 飯

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

山知保、甚野尚志、2017年11月25日)を開催し(*1-5)、日本と東アジアの中近世の文化交流をヨーロッパ近代の経済的拡大と東アジアという二つの視点から討議した。またワークショップ「日本の近代歴史学をみつめ直す」(コーディネーター: 甚野尚志、飯山知保、2018年2月10日)を開催し(*1-101)、近代歴史学の形成過程とそれが孕む問題点を考えた。B班の企画としては、ワークショップ「朝河貫一の教育活動」(コーディネーター: 海老澤衷、甚野尚志、2017年7月15日)を開催し(*1-33)、朝河貫一がイェール大学において何を教えていたか、その詳細を検討した。また、ワークショップ「朝河貫一の東アジア研究」(コーディネーター: 海老澤衷、甚野尚志、2018年1月27日)を開催し(*1-100)、朝河貫一の東アジア関係図書の収集および中国人知識人との関係に焦点を当て、彼の東アジア研究について検討した。C班の企画としては、「日本「文」学史」第3回ワークショップ: 「文」から「文学」へ—東アジアの文学を見直す」(コーディネーター: 河野貴美子、陣野英則、2017年7月22日~23日)を開催し(*1-7,1-13)、前近代以来の日本および東アジアの「文」の概念が、近代以降いかに変化、変容したのかを日本・中国・韓国の視点から明らかにした。またシンポジウム「人文学の「他者」としてのカニバリズム」(コーディネーター: 橋本一径、2017年10月21日)では(*1-103)、文学や思想史、美術史の観点から「カニバリズム」をめぐる考察を行なった。シンポジウム「戯曲を新たに翻訳する意義とは?—シェイクスピアの場合、現代演劇の場合—」(コーディネーター: 冬木ひろみ、2018年1月13日)は(*1-12)、逍遙の翻訳の先進性・特異性の報告に続き、テキストの解釈としての翻訳をいかに舞台に活かすかという点を中心に議論を行った。

2018年度はB班の企画として、シンポジウム「朝河貫一—人文学の形成とその遺産—」(コーディネーター: 海老澤衷、甚野尚志、2018年7月21-22日)を開催し(*1-100)、朝河貫一がイェール大学において達成した人文学がどのようなものであったのかを多面的に解明した。またC班の企画として、講演会「創造する翻訳—近代日本哲学の成長をたどって—」(コーディネーター: 陣野英則、2018年9月25日)を開催し(*1-101)、西田幾多郎などの翻訳論には、翻訳を創造として捉える共通性があったことが提示された。また、シンポジウム「シェイクスピアを翻訳する—日・英翻訳の実際」(コーディネーター: 冬木ひろみ、2019年1月12日)を開催し(*1-101)、シェイクスピアの翻訳がなぜ数多く出版されるのか、その意義を考察した。

【グループ2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて

①国際シンポジウムの開催〔毎年開催〕

各国の最先端の研究者・実作者との対話を通して、1980年代以降に出現した東アジアに共通する新たな文化現象に対する、思想研究・文化研究・文学研究・歴史研究の到達点と限界を明らかにし、研究の革新に向けて提言を試みることを本グループの研究の柱とした。

2014年度

2014年11月23日~25日「デリダ没後10年」(*2-5,24,25,34,41,46,107,140,146,161)。デリダが日本現代思想に与えた影響の一端を明らかにした。

2015年度

(2016年1月17日)1980年代サブカルチャー再訪: (*2-5,7,37,130)アジアを貫く若者文化の起源|音楽家・マンガ家・批評家との議論から、この時期に始まる東アジアの若者文化共通化の実像を明らかにした。

2016年度

(2017年3月18・19日)「新世紀:越境する東アジアの文化を問う—カルチュラルスタディーズ・文学・サブカルチャー・そして人々の心—」(*2-5,15~18,20,21,28,30~32,37,57,58,72,73,76,78,79,84,95,96,101~106,124,156,157,160)。東アジアの新たな文化状況に対する文化研究の到達点と限界、状況の背景にある精神状況の変化を明らかにし、今後の研究の可能性を提示した。

2017年度

(2017年7月20日)「東アジアの文学研究を問う」(*2-5,8,9,19,60,71,74,77,85,86,97,102~105,115)文化研究と文学、翻訳と文学、書面語と文学の各角度から報告を受け、文学研究の再検討・再構築の検討を行った。王晓明、王宏志、王風、千野拓政

(2017年12月9日)「東アジアの文学・文化研究の国際化とナショナリズムの陥穽」(*2-5,11,13,14,36,39,40,48~51,61,62~64,66,80~83,93,120,143,147~149)酒井直樹、古川日出男、閻連科、コーチ・ジャンルーカ、秦剛、高榮蘭、鳥羽耕史、千野拓政。これまでの文学創作・研究が持っていた一国的な傾向からの脱却について、思想的背景(第1部)、創作の現場の実相(第2部)、各国における文学研究の現状(第3部)などの角度からの報告・対談を受けて、文学研究における課題と今後の可能性について検討を行った。

(2018年1月13日)「人文知の明日をみつめて」(*2-5,27,42~45,47,89~92,122,158,159)非文献学として発達したメディア考古学、AIの登場と人文学、人文学の転換の思想的背景などの報告を受けて、人文学の

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

現状と可能性について検討した。エルキ・フータモ、ドミニク・チェン、東浩紀、草原真知子、千野拓政(2018年1月20日)「東アジアと世界の『君の名は。』」(*2-3,5,15~18,20,21,68,76,78,79,123)東アジアでは熱狂的に受け入れられたが、欧米ではほとんど反響のなかったアニメ「君の名は。」について、各地域の現状に関する報告を受けて、サブカルチャーの世界的な動向と、その背景にある問題を検討した。周志強、陳国偉、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ、藤本一勇、千野拓政

2018年度

(2018年10月3日)「20世紀のサムライ・イメージ」(*2-5,38,52~54,109,125)イメージ文化史という角度から。日本人はどのようなイメージで見られてきたか、その変遷を検討し、文献学・非文献の融合、国際日本学の新たな試みを展開した。馬場浩平、李衣雲、アレクサンドル・ニコラエヴィッチ・メチェリャコフ、谷口眞子、松永美穂、オディール・デュスッドこれらのシンポジウムを通じて、思想研究・文化研究・文学研究・歴史研究の抱える課題と今後の革新について、新たな知見の獲得、研究の革新につながる幾つかの提言ができたと考えた。

②人文学の再構築に向けた基礎研究の推進【資料の収集・調査とデータベース化】

・サムライ・イメージの形成と変遷について、仏・独・露・中で資料収集とアンケート・インタビュー調査を行い、サブカルチャーを通じた日本人イメージ形成過程の一端を明らかにした。調査結果を基に、関連資料のデータベースの作成を進め、一部を紙媒体で発表した。ウェブ上の公開は、現在、セキュリティ対策を講じており、その問題が解決しだい公開する>(*2-5,38,125)

・日本国内及びアメリカで、戦後文学に関する文字・映像資料を調査・収集し、特にコロンビア大学のコレクションによって、戦後の一時期の文学・映画に関わる新しい知見が得られた(*2-4,5,13~15,26,35,40,48~51,61~66,80~83,93,120)。

・『早稲田文学』の本文データベースを作成している。これまでに著作権切れの21作品について完成し、戦後文学を代表する文学雑誌の新たなアーカイブを部分的に構築した。現在、ウェブ公開の準備を進めており、セキュリティの問題が解決しだい公開する(*2-5,133)。

・ACG・ラノベ・同人活動、村上春樹の受容について、東アジアに続いてアメリカでアンケート・インタビュー調査を行い、東アジアと共通点が多いことを明らかにした。

2017年度はイタリアで、2018年度はインドで調査を行い、現在も韓国・欧州で調査を進めている(*2-5,15~18,20,21,51,58,72,76,78,79,84,85,95,96,100,101,104,106,107,122,124,130,156,157)。

これらの基礎的研究を通じて、各領域の研究革新のための基盤を一部整備できたと考えた。

③先端的な研究の模索・先端的な議論の展開【講演会・小型シンポジウムの開催】

・2014年度「ナムジュン・パイクと K-456——阿部修也さんとロボット、アート、文化について語る」(*2-5,27,138)を開催し、最先端の芸術ロボットアートについて新たな知見を示すことができた。

・毎年、メンバーが「東アジア人文学フォーラム」(*2-1,2,5,10,67,75,85,87,99,107,144,150,151)に参加し、学術報告を行って東アジアの各大学との先端的な知見の交換を恒常化することができた。2014年度、2015年度は藤本、2016年度は藤本・千野が学術報告を行い、2017年度は貝澤が基調講演、千野が学術報告を行った。

・2015年度、神戸大、トリーア大、早稲田大の三カ所で、日本・ロシア・ドイツの戦後現代抒情詩に関するワークショップ(*2-94,131)を共催し、現代詩研究に新たな視点を提供することができた。

・2015年度、シンポジウム「スクリーン・プラクティス再考：メディア考古学的視点から」(*2-5,42~45,47,89,91,92,158,159)を開催し、無声映画研究に対する新たな視点からのアプローチを提示することができた(1月)。

・2016年度、講演会「フランス語漫画におけるサムライ」(*2-125)を開催し、ヨーロッパにおける日本人イメージの展開に新たな視点を提示することができた(10月)。

・毎年、多和田葉子&高瀬アキの創作と朗読のパフォーマンス・ワークショップを行い、その映像記録(DVD)をまとめてアーカイブ化し、文学・芸術の新たな可能性を示すことができた。2016年度は「葛飾北斎」の絵に言葉と音楽をつける先端的な試みを、2017年度(11月13~14日)はパフォーマンス「世界の終わり」(13日)、ワークショップ(14日)を、2018年度(11月15~16日)はパフォーマンス&ワークショップ「4分33秒」を行った>(*2-5,56,69,70,111,112,117~119,128,129,135,136,141,142,145,152~155)。

・2017年度(7月7日)講演会「教養主義 vs マンガ」マライ・メントライ(*2-114)を開催し、ドイツにおけるマンガ文化と伝統的な教養主義文化の対立状況についての講演を受け、サブカルチャーの抱える問題を検討した。

・2018年度(8月13日)文化研究の世界大会 Cross Road in Shanghai(*2-58)に千野がパネルを組んで参

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

加、Cultural transformation of East Asia and readers と題する報告を行った。

・2018 年度(10 月 3 日)「1930's~1940's のサムライ・イメージ」(*2-5,38,108,109,125)国際シンポジウムに先立って、本研究グループの研究成果をワークショップの形で発表し、オディール・デュスト、谷口眞子、松永美穂が学術報告を行うとともに、討論を進めた。これを下に、同日午後、国際シンポジウム『20 世紀のサムライ・イメージ』を開催した。

・2018 年度(12 月 22 日)シンポジウム「新しい人文学への展望—過去・現在・未来—」(*2-1,2,5,6,22,23,55,56,59,67,113,144,150,151)。5 年間の活動を総括するシンポジウムを開催した。貝澤が「人文科学方法論の基礎と現代的課題: G.シペート、M.バフテンの理論的探究より」と題する講演を、千野が「人文学はどこへ行くのか?—第 2 グループの試み」と題する報告を行った。

これらの先端的議論を通じて各領域における研究革新の可能性を一部提示できたと考える。

④革新的な若手研究者の育成

・毎年、上海大学・南開大学・早稲田大学で、全てを各国の学生が連携して行う大学院生の国際学術討論会を共同開催した。2014、2015 年度は上海大学で、2016 年度は南開大学で実施し、千野と大学院生数名が参加した。2017 年度は早稲田大学で実施し、本学から 5 名の院生と教員 1 名、上海から 5 名の院生と教員 2 名、南開大学から 5 名の院生と教員 1 名が参加した。2018 年度は関西大学を加えて 4 校で実施し、本学から 3 名の大学院生が参加した(11 月に南開大学で開催)。学生の学術交流、研究水準の向上は確実に進み、中国の全国的学術誌への掲載論文が複数出ている(*2-5,78,110,116,126,134,137)。

・大学院生の海外での資料調査、シンポジウム・学会への参加を支援し、のべ 14 名の院生が海外で研究・調査を行って、それぞれ学位論文・学術論文の完成につなげることができた。

これらの育成活動を通じて、新世代の研究者による革新的研究が育ちつつあると考える。

[グループ 3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって

A・B 両班を設けて調査研究をおこなった。A 班は津田左右吉を中心とした人文学形成者の資料調査研究、B 班は 1945 年以前の留学生資料調査研究である。津田らと留学生との学知をめぐる交差にも留意し、調査研究の成果公開をめざす。

初年度にあたる平成 26(2014)年度は、第一に、研究体制の整備(機器購入を含む)、早稲田大学所蔵の津田左右吉資料(未公開)の確認(A 班: 渡邊義浩チーム)、津田との関係が深い岩波茂雄関係資料調査(A 班: 十重田裕一チーム)、留学生資料の確認(B 班: 真辺将之チーム)を開始する(*3-78,93,120,124)。第二に、日韓国際シンポジウム「仏教文明の拡大と転回」(早稲田大学、2014,10,24-25)を開催し、仏教文明に関する認識や研究が現在どのような状況にあるのかを日本・韓国・中国の研究者 17 名が報告し合い、討論した(*3-104・105,127)。その結果、認識や研究のズレが確認され、東アジアにおける人文学のあり方を問い直す好機となった。第三に、特別研究集会「津田左右吉の人文学と中国」(早稲田大学、2015,1,17)を開催し、津田の満州朝鮮歴史地理研究に対する中国側の反応が取り上げられた(*3-48,93,129)。第四に、B 班による留学生関係の海外調査を実施した(*3-77,114~116)。対象は中国(南京市・中国歴史档案馆、北京市・中国国家図書館)(2014,12,28-2015,1,5)、台湾(国立台湾図書館、中央研究院、国史館ほか)(2015,2,3-7)、韓国(早稲田大学韓国校友会、韓国国会図書館、韓国国立中央図書館)(2015,3,9-13)である。資料の公開度・閲覧方法などが確認された。

平成 27(2015)年度は、第一に、A・B 両班による資料調査・整理を継続した。大学所蔵の資料については、データベース化の準備をすすめた。第二に、A・B 両班合同で日本思想史学会大会特別パネルセッション「津田左右吉と早稲田大学—記憶と記録—」(早稲田大学、関連資料展示 2015,10,18)を開き、報告した(*3-45,76)。第三に、早稲田大学の文化行事(2015,10,24,26)において、新川登亀男が津田のアジア認識と留学生のかかわりについて報告した(*3-126)。第四に、定期刊行誌『津田左右吉とアジアの人文学』1,2 号(2016,3)を発刊し、早稲田大学所蔵の「津田左右吉文庫目録」と前年度の特別研究集会「津田左右吉の人文学と中国」の報告内容を全文公開した(*3-93,129)。

平成 28(2016)年度は、第一に、A・B 両班による資料調査・整理を継続して、データベース化をすすめた。第二に、A 班(鶴見太郎チーム)による柳田國男・丸山真男両文庫の調査と、同 A 班(十重田裕一チーム)による出版検閲関係の資料調査(科研費協力)があらたに加わった(*3-40,49・50,84,118,120)。第三に、新川登亀男、真辺将之が本研究および日本史研究全体の現状と課題を中国・南開大学で講演し、多くの関心を集めた(2016,7,7)(*3-38,45~47,56,80,121,123)。第四に、台湾における留学生資料調査を真辺将之が継続した(2016,12,27-2017,1,6)。第五に、早稲田大学総合人文科学研究センター等と共同で国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—」を開いた(早稲田大学、2017,1,14)。津田の人文学形成と近代との相関性を多角的な観点から報告し合い、多数の参加者を得た(*3-59,117・118,120,122)。第六に、『津田左右吉とアジアの人文学』3 号(2017,2)を発刊し、B 班による留學

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

生資料調査中間報告特集となった(*3-77,114~116)。

平成 29(2017)年度は、第一に、早稲田大学でシンポジウム「近代日本の国民思想と中国」を実施し(2017,11,18)、近代日本の国民思想の中に津田左右吉を位置づける早川万年・田澤晴子の成果を得た(*3-13・14)。早川万年「津田左右吉『国民思想』論の一側面」は、津田の人文学の主要な柱となる国民思想や記紀批判を問題視し、そこに先験的な印象・感情論、世俗化、単調性、地域史の欠如などがあることを鋭く指摘し、文献学の再建に負の意味において示唆をあたえたとみた。田澤晴子「内藤湖南と津田左右吉」は、津田左右吉と内藤湖南の日本文化史論を比較検討し、内藤は、中国文明の一端としての日本文化、また中世に育った日本文化に注目しましたが、津田は中国文明と日本文化の差異や断絶を主張し、近代の世界文化(欧米文化)を体現する日本の独自の使命を訴えているとみたのである。第二に、早稲田大学で「第九回東アジア人文学フォーラム 東アジアにおける人文学の復興」が実施されたことに伴い(2017, 12, 16・17、第三研究グループを代表して、新川登亀男が「近代日本の『科学』と『人文』概念—「哲・史・文」との関係—」という報告を行った(*3-19)。これは、「一科一学」や「一学一術」にはじまる近代日本の知のあり方を解析し、明治初年と一九四五年の敗戦後に注目し、人文学の所在を問うたものである。第三に、『津田左右吉とアジアの人文学』第四号を公刊し(*3-70)、約 400 箇所の研究機関・研究者に配布した。これは、早稲田大学総合人文科学研究センター等と共同で開催した国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—」のち、報告者それぞれが自らの研究を深め、見つけなおした成果である。

平成 30(2018)年度は、第一に、第一グループとの共催により、朝河貫一の没後 70 年記念シンポジウムを「朝河貫一—人文学の形成とその遺産—」をテーマに大隈講堂で開催した(2018, 7, 21-22)。その成果については、第一グループの報告に譲ることとする。第二に、早稲田大学図書館蔵の津田左右吉未公開資料の整理調査の結果、発見された津田の翻訳原稿を渡邊義浩・黒崎恵輔・関俊史・滝口雅依子『津田左右吉訳稿集 トマス・カーライル「偉人崇拜論」』として出版した(*3-65)。トマス・カーライル(Thomas Carlyle, 1795-1881)は、イギリスの歴史家・評論家であり、『英雄崇拜論』はその代表作の一つに数えられる。津田左右吉は、明治二十一(一八八八)年に、通信講義録の購入により、東京専門学校政治科校外生となり、明治二十三(一八九〇)年、東京専門学校邦語政治科二年に編入した。翌年卒業した後、中学校の教員を勤めながら、二十二歳から白鳥庫吉について、西洋史・インド史・朝鮮史・中国史など歴史の勉学に取り組む。そして白鳥庫吉が明治三十二(一八九九)年に富山房から刊行した西洋歴史教科書『新撰西洋史』にも関わっている。本書は、そうした時期に翻訳されたものと考えられよう。第三に、早稲田大学図書館蔵の津田左右吉未公開資料のなかから、『論語と孔子の思想』の津田自筆原稿をPDF化し、公開した(*3-113)。早稲田大学図書館は、目録に整理した蔵書のほかに、ダンボール三十六箱分におよぶ津田に関する未整理資料を所蔵している。今回、津田左右吉研究の基礎資料の整備のために、未整理資料を整理した。未整理資料のなかには、全集に収録される様々な原稿の草稿がある。そのなかでもまとまった形を残していた『論語と孔子の思想』の自筆原稿を公開した。これは、津田の原稿生成過程を理解する一助となろう。第四に、早稲田大学大学史資料センター蔵の留学生資料調査を継続発展させ、比較的資料に恵まれる留学生と人文学との関わり方、さらには帰国後の展開を追究した。第五に、上記の資料調査の成果を公表するためのデータベース化を行い、その成果を『津田左右吉とアジアの人文学』第五号に公刊した(*3-64)。さらに、第六として、三つのグループ全体の総括のためのシンポジウムを開催し、近代日本と東アジア文化圏という研究テーマを総括した(*3-66)。

<優れた成果が上がった点>

朝河貫一研究は、わが国の人文学の形成を考察する上でも、グローバル化の時代の新しい人文学の創出を試みる上でも注目された。また論文集『近代人文学はいかに形成されたか』は、成果を研究した論集であるが、混迷を極める人文学を新たな地平へと導く可能性を十分に含んでいるとの評価を得た。

【グループ 1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

2014 年度の「日本『文』学史」ワークショップ(2014 年 5 月)の成果として、河野貴美子、Wiebke Denecke、新川登亀男、陣野英則編『日本「文」学史 第一冊「文」の環境—「文学」以前』(勉誠出版、2015 年)(*1-103)を刊行し、2015 年度のシンポジウム「朝河貫一と日本中世史研究の現在」(2015 年 12 月)の成果として、海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』(吉川弘文館、2017 年 3 月)(*1-100)を刊行した。国立台湾大学、北京大学、香港城市大学、復旦大学において東アジアの人文学の新しい可能性についての意見交換を行い、今後の東アジアにおける人文学の共同研究への見通しを得ることができた。2018 年度のシンポジウム「朝河貫一—人文学の形成とその遺産—」(2018 年 7 月)の成果として、海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と人文学の形成』(吉川弘文館、2019 年 3 月)(*1-100)を刊行した。第一グループ全体の共同研究の成果として、甚野尚志、河野貴美子、陣野英則編『近代人文

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

学はいかに形成されたか』(勉誠出版、2019年2月)(*1-101)を刊行した。また、朝河貫一研究の成果として、甚野尚志編『福島県立図書館所蔵の朝河貫一資料目録』改訂版(*1-102)が刊行された。

【グループ 2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

各年度に国際シンポジウムを開催し、その内容を単行本にまとめて出版することとした。2015 年度開催のシンポジウム「1980 年第サブカルチャー再訪—アジアを貫くサブカルチャーの起源」(*2-124)、および 2016 年度開催の「新世紀:越境する東アジアの文化を問う—カルチュラルスタディーズ・文学・サブカルチャー・そして人々の心—」(*2-130)は『越境する東アジアの文化を問う—新世紀の文化研究』(*2-37)としてまとめ、ひつじ書房から出版した(2019年3月)。文化研究の到達点と課題、今後の可能性を論じ、人文学の今後の展開の一つの展望を提示したと考える。また、2018 年度のワークショップ「1930's~1940's のサムライ・イメージ」(*2-108)、国際シンポジウム「20 世紀のサムライ・イメージ」(*2-109)および、独仏露における資料のデータベースを、報告集『サムライ・イメージの光と影—国際日本学の観点から—』(*2-38)にまとめた。海外における日本人イメージの変遷に迫る、国際日本学の進展に貢献する成果と考える。

【グループ 3】早稲田大学と東アジア—人文学の再生に向かって

A 班(渡邊義浩・十重田裕一両チーム)による津田左右吉関係の資料調査(早稲田大学図書館蔵、アメリカ・メリーランド大学蔵ブランゲ文庫)で津田の翻訳原稿や出版内閣関係資料新発見が相次いだ(*3-65,69,72,113)。また、研究集会やシンポジウムにおいて、津田の人文学を多角的に検討することができた(*3-12,46,48~50,52,69・70,72,74,78,80・81)。これらの成果により、津田左右吉に関する新資料が発掘され、新たな津田左右吉像を結ぶための基礎資料が整備された。②B 班(真辺将之チーム)による早稲田大学大学史資料センター所蔵の未公開津田資料(書簡など)の全文整理・翻刻と同資料センター所蔵『校友会会員名簿』による留学生情報の確認・整理、データベース化とが進展し、その成果は『津田左右吉とアジアの人文学』2・3・5 号で公表された(*3-29,45,64,66~68)。これらの成果も、近代における早稲田大学の留学生に関する新資料の整理と位置づけることができ、近代日本の形成における早稲田大学の役割を理解するための基礎資料となろう。

<課題となった点>

各グループにおいても大所帯の学際的共同研究であったため、グループ内、グループ相互間において、連携、意思疎通をはかることが十分でなかった。また、グループ単位の個別の成果を総合し、それに基づきつつ、本共同研究目指した課題である人文学全体へと収斂させた人文学の生成に向けての展望を明確には打ち出しえなかった。

【グループ 1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

最終的な論文集を出すことができたが、毎年、個別的に開催してきたワークショップ、シンポジウムなどを反映した成果をもう少し、論文の形で残すことができればよかった。また分担者の間で意思疎通を図り、全体のテーマにかかわるワークショップを多く開催すべきだったと思う。

【グループ 2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

第 2 グループの研究は、過去をふりかえる第 1 グループ、第 3 グループの研究と若干性質が異なるため、互いの連携・意思疎通が必ずしも十分に取れなかった嫌いがある。また、今後の人文学の展開に対する提言については、多様化する人文学の、その多様性の中にある可能性を指摘することはできたと考えるが、人文学全体の展望を収斂して提示することは不可能だった。

【グループ 3】早稲田大学と東アジア—人文学の再生に向かって

- ・津田の未公開資料の整理に時間がかかり、新資料を発見したものの、その翻刻に止まり、それに基づいて、津田と西欧近代、さらには日本の近代化と人文学への視座を考察する時間が存在しなかった。
- ・早稲田大学への留学生の記録も膨大で、そのデータベース入力为中心となり、分析にまで及び得なかった。さらに個人情報保護との関係から、制作したデータベースを広く公開することが不可能と判断されたことは残念であった。

<自己評価の実施結果と対応状況>

既に■<現在までの進捗状況及び達成度>で言及したとおり、研究成果を自己評価、点検するために総括シンポジウム「新しい人文学への展望—過去・現在・未来」(2018年12月22日)を開催したが、3 グループの代表者が各々成果発表を行うだけでなく、研究担当者が加わり、それに基づいて公開討論を行うことによって研究参加者に成果と課題を共有することに努めた。当日の講演(安酸敏真「人文学をどう構築するか」、貝澤哉「人文科学方法論の基礎と現代的課題」と成果発表、討論の内容は、『新しい人文学への展望—過去・現在・未来』を冊子として刊行し、関係機関に配布した。また、上記の刊行物の講演全文と成果発表の要旨は英文で公開することによって、自己評価の実施結果を広く周知する予定である。

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

共同研究の 5 年間の成果一覧と具体的な成果物(出版刊行物)をもって、それに基づく外部評価を依頼した(●●●●●大学●●●●●学長)。その評価報告書全文を添付するが、おおむね、事業に携わった 3 グループ各々の共同研究に対して高い評価を得ることができた。とりわけグループ 1 が行った朝河貫一研究については、その多角的な視点からの再検証は、近代日本の人文学の形成を考察する上でも、グローバル化の時代の新しい人文学の創出を試みる上でも評価できるとの指摘を得た。また、いわば総括的論集ともいべき『近代人文学はいかに形成されたか』は、混迷を極める人文学を新たな地平へと導く可能性を十分に含んでいるとの評価であった。さらに第2グループのポストコロニアル時代の人文学として集中的に取り組んだ「越境する東アジア文化」に関わる成果については、既存の人文学の枠組では捉えきれない文化現象への分析として、その意義を、既存の人文学との対比から積極的な評価をえた。第 3 グループに対しても求められるべき課題の提示と共に、新たな成果についての一定の評価を得た。

＜研究期間間終了後の展望＞

グループ 1 は引き続き共同研究を組織して成果に基づき深化させていくことになっている。グループ 2 は成果物の刊行を継続し、作成したデータベースは公開できるよう準備中である。また、グループ 3 は未完の史料整理と公開は、引き続き完成と公開のための作業を進めていく予定である。

【グループ 1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

朝河貫一研究については新たに研究組織を立ち上げ、さらなる共同研究を始める予定である。

【グループ 2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

2017 年度以降に開催した国際シンポジウムも、すべて単行本として 2019 年度中にひつじ書房から出版する。現在、鋭意編集中である。サムライ・イメージ、早稲田文学のデータベースは、セキュリティ上の理由から、全世界に向けての公開は現在準備中である。2019 年度中に解決して公開できる見通しである。

【グループ 3】早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向けて

津田左右吉の未公開資料の整理は、いまだ完成しておらず、本研究期間の終了後も整理を継続していきたい。留学生データベースは、それを利用した研究論文の執筆を継続していく。

＜研究成果の副次的効果＞

朝河貫一研究は研究の水準を大きく引き上げただけでなく、わが国の人文学の形成を考察する上でも、グローバル化の時代の新しい人文学の創出を試みる上で重要な成果として注目された。「ポストコロニアル時代の人文学」研究は、共同研究を通じて世界的なネットワークの構築に貢献した。日本文学では、朝河と同時代に東京専門学校で学び、米国で活躍した角田柳作がいるが、2014 年に「角田柳作国際日本学研究所」が本学に開設され日本学の国際化を牽引しており、ネットワークの連携が期待される。津田左右吉もまた、朝河、角田とほぼ同時代に東京専門学校で学んでおり、津田が東アジア諸国の人文学に及ぼした影響も小さくない。今回の共同研究は、本学が近代人文学の形成と、現在のグローバル化の中での人文学再構築の使命を担っていることを具体的な成果によって発信できた。

【グループ 1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

朝河貫一研究については没後 70 年の記念行事と重なったため、郷里の福島の新報、テレビなど様々なメディアに取り上げられた。

【グループ 2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

研究成果の一部は、2019 年度後半に、英文学術誌「Cultural Studies」のアジア特集号(年 1 回発行)の特集として公表される。

【グループ 3】早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向けて

津田左右吉の未公開資料の整理を通じて、若手研究者に津田の研究を深く考える契機が生まれ、それぞれの研究の方法論として活用する姿勢が醸成された。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-------------------|--------------------|--------------------|
| (1) <u>朝河貫一</u> | (2) <u>人文知の革新</u> | (3) <u>サブカルチャー</u> |
| (4) <u>データベース</u> | (5) <u>津田左右吉</u> | (6) <u>留学生</u> |
| (7) <u>東アジア</u> | (8) <u>ヨーロッパ文明</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

[グループ 1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証
2018 年度
1-1 飯山知保 “A Mongol Rising to the Defense of the Realm: “Epitaph for Grand Guardian Sayin Čidaqu” by Zhang Zhu (1287-1368),” (英語) Patricia Buckley Ebrey, Ping Yao, and Cong Ellen Zhang, eds., <i>Diverse Lives: An Anthology of Chinese Funerary Biographies</i> , Seattle: University of Washington Press, upcoming, 201-9.
1-2 飯山知保「女真皇帝と華北社会—郊祀羣官からみた金代「皇帝」像」, 臼杵勲・武田和哉・藤原崇人・古松崇志[編],『アジア遊学 女真・金代史特集号』, 東京: 勉誠出版, 2019 年 4 月。
1-3 飯山知保「近現代中国における碑刻調査—華北の事例から—」, 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則[編],『近代人文学はいかに形成されたか—学知・翻訳・蔵書』, 東京: 勉誠出版, pp.109-128, 2019 年 2 月。
1-4 飯山知保「《西隱文稿》所见元明交替与北人官僚」(中国語), 余蔚・平田茂樹・温海清[主編],『十三世纪东亚史の新可能性—首届中日青年学者辽宋西夏金元史研讨会论文集』, 上海: 中西書局, pp.347-381, 2018 年 9 月。
*1-5 飯山知保 Endo Satoshi, Iiyama Tomoyasu, Ito Kazuma, and Mori Eisuke, “Recent Japanese Scholarship on the Multi-State Order in East Eurasia from the Tenth to Thirteenth Centuries,” (英語) <i>The Journal of Song-Yuan Studies</i> , vol.47, pp.193-205, January, 2019.
1-6 河野貴美子「中国の近代大学図書館の形成と知の体系——燕京大学図書館を例として」甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編『近代人文学はいかに形成されたか——学知・翻訳・蔵書』勉誠出版、pp.330 - 356、2019 年 2 月。
*1-7 河野貴美子「“Literature” (bungaku) and “The Novel” (shōsetsu) as Book Classifications in Modern Japan and China」『早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌 WASEDA RILAS JOURNAL』6、pp.27 - 37、2018 年 10 月。
1-8 河野貴美子「従佚存書看中国學術文化的伝播以及漢字漢文文化圏の形成意義」『国際漢学研究通説』16、北京大学国際漢学家研修基地・北京大学出版社、pp.86 - 108、2018 年 06 月。
1-9 柳澤 明「第 7 章 露清関係の展開と中央ユーラシア」小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018 年 4 月、日本語
1-10 井上文則『天を相手にする—評伝宮崎市定』国書刊行会、2018 年。
1-11 井上文則「宮崎市定のローマ帝国—『天を相手にする—評伝宮崎市定』補遺」『西洋古代史研究』、第 18 号、2018 年、43~55 頁。
*1-12 冬木ひろみ「規範としての英文学 — シェイクスピアの翻訳をめぐる—」『近代人文学はいかに形成されたか』甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編、勉誠出版、2019 年
*1-13 陣野英則「聞かれる物語と書かれた物語」『中古文学』101、中古文学会、pp.3-14、2018 年 5 月。《依頼》
1-14 陣野英則「翻訳以上、翻案未満の『源氏物語』—町田康「末摘花」の場合—」, 寺田澄江・加藤昌嘉・畑中千晶・緑川真知子(編)『源氏物語を書きかえる 翻訳・注釈・翻案』、青簡舎、pp.251-266、2018 年 11 月。
1-15 陣野英則「『篁物語』に関する断章—「右大臣のむすめ」への求婚をめぐる—」、『早稲田大学日本古典籍研究所 年報』12、早稲田大学総合研究機構 日本古典籍研究所、pp.31-41、2019 年 3 月。
1-16 陣野英則「明治期の「文学」研究とアカデミズム—国文学を中心に—」, 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則 編『近代人文学はいかに形成されたか—学知・翻訳・蔵書』、勉誠出版、2019 年 2 月、pp.24-42。
1-17 甚野尚志「日本の近代歴史学と概念化の問題—「封建制」概念をめぐる—」Waseda Rilas Journal, NO.6, 査読無し
1-18 甚野尚志「朝河貫一とグレッチェン・ウォレン(Gretchen Warren)の文通—イェール大学バイネッケ図書館所蔵「朝河発グレッチェン宛書簡集」について—」Waseda Rilas Journal, NO.6, 査読無し
1-19 甚野尚志「歴史家・朝河貫一への旅(2)—朝河貫一の戦後の日記(1945-48 年)を読む—」、『エクフラシス—ヨーロッパ文化研究—』(早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所)第 9 号、2019 年 3 月、1-12 頁、査読無し

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- 1-20. 甚野尚志、「イエズス会の政治思想と暴政の批判—フアン・デ・マリアナの暴君放伐論とその中世的起源—」、『早稲田大学文学研究科紀要』第 64 輯、2018 年 3 月、頁、査読無し
- 1-21. 橋本一径「帝王切開と人肉食——日本の科学黎明期から見た人文学と「人間」、甚野尚志、河野貴美子、陣野英則編『近代人文学はいかにして形成されたか』、勉誠出版、2019 年、p. 213-237.
- 1-22. 根占献一「小松帯刀と新時代—国際法・印刷・教育・科学」学習院女子大学紀要 21(2019)、27-38 頁.
- 2017 年度
- 1-23. 井上文則、Fuminori INOUE, A Historiographical Study of the Fall of the Western Roman Empire and of the Chinese Empire (Han, Wei and Jin), T. Minamikawa (ed.), Decline and Decline—Narratives in the Greek and Roman World, Kyoto University 2017, 105~111.
- 1-24. 飯山知保、「モンゴル・「中国」の接壤地帯としての 12-14 世紀華北—モンゴル帝国の統治 と華北社会の変容—」、『島根県立大学北東アジア地域研究センター 北東アジア研究』、別冊第 3 号、pp.11-20、2017 年 9 月.
- 1-25. 飯山知保、(発表) Facilitating the Panel 22 “Song–Ming,” the Second Conference on Middle Period Chinese Humanities, Lipsius 235B, Leiden University, Netherland (英語), September 16, 2017.
- 1-26. 飯山知保、(発表) “Memory of Mongol Rule and Lineage Building in Ming–Qing North China,” in the Panel “Transcending Boundaries of Identity, Religion, and Dynasties in the Local Societies during the Song(Jin)–Yuan–Ming Transition (1000 to 1400),” AAS-in-Asia 2017, Hyundai Motor Hall, B204, Korea University, Republic of Korea (英語), June 24, 2017.
- 1-27. 河野貴美子、(共編著)、河野貴美子、Wiebke DENECKE、新川登亀男、陣野英則、谷口眞子、宗像和重編、『日本「文」学史 A History of Japanese “Letterature” 第二冊「文」と人びと——継承と断絶』、勉誠出版 2017 年 6 月
- 1-28. 河野貴美子、「日中近代の図書分類からみる「文学」、「小説」、小峯和明監修、金英順編『シリーズ 日本文学の展望を拓く 第一巻 東アジアの文化圏』、笠間書院、pp.196-209、2017 年 11 月、査読無し
- 1-29. 河野貴美子、「奈良(南都)仏教における人的交流・文化接触」、鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市編『日本古代交流史入門』、勉誠出版、pp.174-190、2017 年 6 月、査読無し
- 1-30. 河野貴美子、「敦煌出土「新集文詞九経抄」と古代日本の金言成句集」、荒木浩・近本謙介・李銘敬編『アジア遊学 208 ひと・もの・知の往来 シルクロードの文化学』、勉誠出版、pp.27-41、2017 年 5 月、査読無し
- 1-31. 甚野尚志、「朝河貫一の戦後の日記(1945-48 年)を読む」、『朝河貫一研究会ニュース』No.90、2017 年 4 月、2-10 頁、査読無し
- 1-32. 甚野尚志、「歴史家・朝河貫一への旅(一)—イェール大学院時代について、Margaret Dimond 宛書簡から—」、『エクフラシス—ヨーロッパ文化研究—』(早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所) 第 8 号、2018 年 3 月、1-13 頁、査読無し
- 1-33. 甚野尚志、「朝河貫一の西洋中世史の研究と教育活動 —イェール大学所蔵『朝河貫一文書 (Asakawa Papers)』の分析から—」、『早稲田大学文学研究科紀要』第 63 輯、2018 年 3 月、559-582 頁、査読無し
- 1-34. 甚野尚志、(翻訳)、ベルンハルト・シンメルペニヒ、甚野尚志・成川岳大・小林亜沙美訳『ローマ教皇庁の歴史—古代からルネサンスまで—』、刀水書房、2018 年 12 月
- 1-35. 陣野英則、「『源氏物語』のつくられた「語り」—「関屋」巻を例に—」『日本文学』66-4、日本文学協会、pp.2-11、2017 年 4 月。《依頼》
- 1-36. 陣野英則、「物語叙述の主体—物語論における光源氏の発言を手がかりに—」土方洋一・陣野英則(編)『日本文学研究ジャーナル』3、古典ライブラリー、pp.50-63、2017 年 9 月。《依頼》
- 1-37. 陣野英則、(共編著)、河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則・谷口眞子・宗像和重(編)『日本「文」学史 第二冊「文」と人びと—継承と断絶』、勉誠出版、pp.1-560、2017 年 6 月。*「第一部《文の発信者》—文の人、文と人 総論」(pp.60-74)を執筆。
- 1-38. 陣野英則、(編集協力)、柳井滋・室伏信助・大朝雄二・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎(校注)今井久代・陣野英則・松岡智之・田村隆(編集協力)『源氏物語(一) 桐壺—末摘花』(岩波文庫 30-015-10)、岩波書店、2017 年 7 月。*新日本古典文学大系『源氏物語』(岩波書店、1993-1999 年)にもとづく文庫版の第一分冊の編集にあたり、「夕顔」巻および「若紫」巻の本文・注釈(pp.229-496)の補訂を担当。
- 1-39. 橋本一径、「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第 6 回]「痛み」と「病氣」の乖離』、『Cancer Board Square』、vol. 3, no. 1、2017 年 7 月、190-194 頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- 1-40.橋本一径、Kazumichi HASHIMOTO, “《 Debunking 》, ou le nouvel enjeu de la retouche photographique à l' ère numérique,” *Rilas Journal*, vol. 5, 2017, p.416-421.
- 1-41.橋本一径、「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第 7 回] 「動物には痛みがない」」『Cancer Board Square』, vol. 3, no. 3, 2017 年 10 月、152-156 頁
- 1-42.橋本一径、「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第 8 回] 身体——「資源」と「食物」の間で」『Cancer Board Square』, vol. 4, no. 1, 2018 年 2 月、164-167 頁
- 1-43.橋本一径、(翻訳)アラン・シュピオ『法的人間 ホモ・ジュリディクス』橋本一径、嵩さやか訳、勁草書房、2018 年 3 月
- 1-44.橋本一径(翻訳)ジャン＝ノエル・ミサ、パスカル・ヌーヴェル編『ドーピングの哲学』、橋本一径訳、新曜社、2017 年 10 月
- 2016 年度
- *1-45.陣野英則「古典テキストの中の越境と交流—『篁物語』を例に—」『文学・語学』218,全国大学国語国文学会, 2017 年 3 月
- 1-46.陣野英則「「花桜折る少将」の切り詰められた世界—終末部における中将の乳母登場の意義など—」横溝博・久下裕利編『知の遺産シリーズ 4 堤中納言物語の新世界』,武蔵野書院, 2017 年 3 月。
- 1-47.橋本一径「心霊主義における声と身元確認——「作家なき作品」の制作の場としての交霊会」,塚本昌則、鈴木雅雄編『声と文学』,平凡社、2017 年 3 月、412-434 頁
- *1-48.根占献一、Suicide and its Meaning in History: Rethinking Francesco Carletti and Japanese Writers. *Bulletin of Gakushuin Women's College*, No.19, 2017, pp.145-156
- *1-49.甚野尚志「朝河貫一と日欧比較封建制論」(海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』,吉川弘文館、2017 年 3 月、2-40 頁
- 1-50.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第 5 回「痛み」は誰のものか?」,『Cancer Board Square』, vol. 3, no. 1, 2017 年 2 月、162-166 頁
- *1-51.河野貴美子、「渤海との外交における文事と白居易」,『中古文学』(中古文学会)、98、2016 年 12 月、41-52 頁
- 1-52.飯山知保、“Steles and Status: Evidence for the Emergence of a New Elite in Yuan North China,” (英語) *Journal of Chinese History*, vol.1, November, 2016. pp.1-24
- *1-53.河野貴美子、「『日本霊異記』における『法華経』語句の利用」,浅田徹編『アジア遊学 日本化する法華経』(勉誠出版)、202、2016 年 10 月、145-159 頁
- 1-54.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第 4 回] 慢性疾患は医学の敗北か?」,『Cancer Board Square』, vol. 2, no. 3, 2016 年 10 月、216-220 頁
- 1-55.冬木ひろみ、「記憶と五感から見る『ハムレット』」,『甦るシェイクスピア—没後 400 年記念論文集』,日本シェイクスピア協会編、査読有、研究社、2016 年 10 月、40-61 頁
- 1-56.冬木ひろみ、「『冬物語』の神話世界—祈りから再生へ」,『祈りと再生のコスモロジー』瀧澤雅彦、紺本英雄編、査読無、成文堂、2016 年 9 月、713-728 頁
- 1-57.飯山知保、「明代先塋碑の変遷」,『宋代史から考える』編集委員会[編],『宋代史から考える』,東京:汲古書院、2016 年 8 月、289-312 頁
- *1-58.河野貴美子、「幼学書・注釈書からみる古代日本の「語」「文」の形成——漢語と和語の衝突と融合」,河野貴美子・王勇編『アジア遊学 衝突と融合の東アジア文化史』(勉誠出版)、199、2016 年 8 月、92-107 頁
- 1-59.河野貴美子、「「鬼」を語り記すことの意味—『弘決外典鈔』からみる『日本霊異記』の「鬼」および内典・外典(〔シンポジウム〕二〇一四年十二月例会「南都・鬼・霊異記」)」、『説話文学研究』(説話文学会)、51、2016 年 8 月、43-53 頁
- 1-60.飯山知保、“Genealogical Steles in North China during the Jin and Yuan Dynasties,” (英語) *The International Journal of Asian Studies*, vol.13-2, July, 2016, pp.151-196.
- 1-61.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第 3 回] 「生まれない」ための医学——エンハンスメントの未来」,『Cancer Board Square』, vol. 2, no. 2, 2016 年 7 月、190-194 頁
- *1-62.河野貴美子、「『源氏物語』古注釈書が引く漢籍由来の金言成句」,李銘敬・小峯和明編『アジア遊学 日本文学のなかの(中国)』(勉誠出版)、197、2016 年 6 月、216-221 頁
- *1-63.陣野英則「ナラトロジーのこれからと『源氏物語』—人称をめぐる課題を中心に—」助川幸逸郎・立石和弘・土方洋一・松岡智之編『新時代への源氏学第 9 巻 架橋する(文学)理論』,竹林舎、2016 年 5

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

月、96-122 頁

1-64.河野貴美子、「日本文学史における『日本霊異記』の意義——その表現と存在——」、『上代文学』(上代文学会)、116、2016年4月、28-45頁

1-65.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第2回] 誰のものでもない体」、『Cancer Board Square』,vol. 2, no. 1, 2016年,198-202頁

2015年度

1-66.飯山知保 “A Career between Two Cultures: Guo Yu, A Chinese Literatus in the Yuan Bureaucracy,”(英語) The Journal of Song-Yuan Studies, vol.44, 2014 (published in March, 2016), pp.471-501.

1-67.飯山知保「金元時期北方社会演変与“先瑩碑”的出現」(中国語)、『中国史研究』, 2015年 第4期, 2015年, 117-138頁

1-68.井上文則「宮崎市定と西洋古代史研究」『西洋古代史研究』15号, 2015年, 1-18頁

1-69.河野貴美子「『三教指帰』および『三教指帰注集』にみる『孝経』の受容」、『東アジア比較文化研究』(東アジア比較文化国際会議日本支部), 14号, 2015年, 29-46頁.

*1-70.根占献一 “Aristotelianism, Platonism and Humanism in Japan’s Christian Century”, Bulletin of Gakushuin Women’s College, no.18, 2016, pp.149-158.

1-71.根占献一 “The Era of Movable Type and the Nejime Library in the Age of ‘Civilization and Enlightenment’(Bunmei Kaika): Concerning a World with Books,” The Gakushuin Journal of International Studies, vol. 3, 2016, pp.37-48.

1-72.橋本一径「いかにして私たちはイメージに生気を吹き込んでいるのか—ハンス・ベルティンク『イメージ人類学』をめぐって」、『国立新美術館研究紀要』,no.2, 2015年, 264-272頁

1-73.橋本一径「三脚写真論」、『photographers’ gallery press』,no. 13,2015年, 58-68頁.

1-74.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第1回] 動物は病気にならない」、『Cancer Board Square』, vol. 1, no. 1, 2015年, 154-159頁

2014年度

1-75.甚野尚志 「トレント公会議シンポジウムについて」、『西洋史論叢』第36号, 2014年12月, 1-6頁

1-76.河野貴美子「『花鳥余情』が説く『源氏物語』のことばと心——「漢」との関わりにおいて——」、『国文学研究』175集, 2015年3月 1-16頁

1-77.河野貴美子「古代日本の仏教説話と内典・外典——『日本霊異記』を中心に」, 新川登亀男編『仏教文明の転回と表現 文字・言語・造形と思想』, 勉誠出版, 2015年3月, 169-208頁

1-78.河野貴美子「北京大学図書館蔵の「燕京大学図書館日書籍総計簿」」、『日本歴史』802号, 2015年3月, 73-75頁

1-79.河野貴美子「『河海抄』にみる「万葉学」—漢語・漢籍との関係を中心に—」、『國學院雑誌』116巻1号, 2015年1月, 90-109頁

1-80.河野貴美子「経学文献在古代日語文化中的展開——以源為憲撰《世俗諺文》為中心」, 張伯偉編『域外漢籍研究集刊』第10輯, 中華書局, 2014年10月, 17-37頁

1-81.河野貴美子「中国国家図書館蔵楊守敬旧蔵『日本霊異記』写本について」、『文化史資料考證』刊行委員会編『嵐義人先生古稀記念論集 文化史資料考證』, 『文化史資料考證』刊行委員会, 2014年8月, 421-431頁

1-82.陣野英則「物語文学にみえる学問——『うつほ物語』と『源氏物語』の検討から——」, 『専修大学人文科学研究月報』(専修大学人文科学研究所), 第272号, 2014年9月, 11-34頁

1-83.陣野英則「『源氏物語』の本文校訂をめぐって——「須磨」巻の「くしとらす」攷——」, 『国文学研究』(早稲田大学国文学会), 第174集, 2014年10月, 1-12頁

1-84.陣野英則「『源氏物語』の言葉と時空——「ものあはれなり」をめぐって——」, 『國語と國文學』(東京大学国語国文学会), 第91巻第11号, 2014年11月, 16-27頁

1-85.陣野英則「藤式部丞と紫式部—藤式部」, 『文学』(岩波書店), 隔月刊第16巻第1号, 2015年1月, 62-75頁

1-86.陣野英則「学界時評 中古」, 『リポート笠間』(笠間書院), 57号, 2014年11月, 72-75頁

1-87.陣野英則「定家本・青表紙本『源氏物語』のシンポジウムに随伴して学んだこと」, 『中古文学』(中古文学会), 第94号, 29-30頁

1-88.柳澤明「キャフタにおける清朝の「官營隊商」について—“bederge 回子”の活動—」、『史滴』36号, 2014年12月, pp.232-253

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- 1-89.柳澤明「王鍾翰教授とその清史研究」『東方学』第 128 輯, 2014 年 7 月, 160-168 頁
- 1-90.井上文則 The Image of Gallienus in the Historia Augusta, Memory of the Past and its Utility, ed. by Y. Nakai and P. Carafa, Roma, 2014, pp. 131-142.
- 1-91.梅森直之「白井聡『永続敗戦論』: 石橋湛山賞受容によせて」、『自由思想』, 136 号, 2015 年 1 月, 28-31 頁
- *1-92.梅森直之・八尾祥平「東アジアから 1968 年をみつめなおす」、『ワセダアジアレビュー』17 号, 2015 年, 21-24 頁
- 1-93.橋本一径「火災写真論 1886-1897」, photographers' gallery press, no. 12, 2014 年, 160-170 頁
- 1-94.橋本一径(共著)、真野倫平編『近代科学と芸術創造』, 行路社, 2015 年, 59-76 頁, 137-151 頁, 383-392 頁, 451 頁(総頁数)
- 1-95.飯山知保「金元交替と華北士人」, 『アジア遊学 180 南宋江湖の詩人たち—中国近世文学の夜明け』, 東京: 勉誠出版, 2015 年 3 月, 224-233 頁
- 1-96.飯山知保「蒙元支配与晋北地区地方精英層の変動—以《定襄金石攷》为中心」(中国語), 『碑銘研究』, 第二輯, 北京: 社会科学文献出版社, 2014 年 11 月, pp. 137-166.
- 1-97.飯山知保, “The Rise of the Song Sichuanese Literati Elites in Social and Cultural Contexts: A Review of Managing the Territories from Afar: The Imperial State and Elites in Sichuan, 755-1279, by Song Chen,” (英語) Dissertation Reviews (<http://dissertationreviews.org/archives/8854>), posted on May 7, 2014.
- 1-98.飯山知保, “A Tangut Family’s Community Compact and Rituals: Aspects of the Society of North China, ca. 1350 to the Present,” (英語) Asia Major, 27-1, pp. 99-138, May, 2014.
- 1-99.根占献一「根占献一「ガスパロ・コンタリーニとトレント公会議への哲学的・神学的傾向」, 『西洋史論叢』第 36 号, 2014 年 12 月, 25-38 頁.
- [グループ 2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて**
- 2018 年度**
- *2-1 貝澤哉「現象学から笑いと小説の理論へ」, 『ゲンロン 9』第一期終刊号, p160-166, 2018 年 10 月
- *2-2 貝澤哉「人文科学方法論の基礎的問題と現代的課題へのアプローチ: G. シペート, M. バフチンの理論的探究を手がかりとして」, 『新しい人文学への展望—過去・現在・未来』, p10-15, 早稲田大学文学学術院 2019 年 3 月
- *2-3 藤本一勇「二つの「世界／セカイ」の狭間で」『表象・メディア研究』第 9 号, 早稲田表象・メディア論学会, p. 1-16, 2019 年 3 月
- *2-4 鳥羽耕史(分担執筆)「第 4 章 公害と記録映画——大気汚染から放射能汚染まで」, 丹羽美之、吉見俊哉編『記録映画アーカイブ3 戦後史の切断面 公害・若者たちの叛乱・大阪万博』東京大学出版会 2018 年 7 月 P81-104
- *2-5 千野拓政、分担執筆「人文学はどこへ行くのか?—第 2 グループの試み」p23-31, 『新しい人文学への展望—過去・現在・未来』, 早稲田大学文学学術院 2019 年 3 月
- 2017 年度**
- *2-6 貝澤哉「人文科学方法論の基礎的問題と現代的課題へのアプローチ: G. シペート, M. バフチンの理論的探究を手がかりとして」『第 9 回東アジア人文学フォーラム「東アジアにおける人文学の復興」』論文集, p15-32, 2017 年 12 月
- *2-7 小沼純一、分担執筆「音楽の創作の現場から学ぶ 1&2」, 『音楽著作権法入門』国立音楽大学 2017、日本音楽著作権協会 JASRAC 寄附講座 報告書, 2018 年 3 月
- *2-8 千野拓政「从三个日记谈中国现代文学的诞生—鲁迅和果戈理的《狂啊人日记》与周瘦鹃的《断肠日记》」, 《“世界华文区域关系与跨界发展”国际学术研讨会》论文集 p12-18, 浙江大学, 2017 年 4 月
- *2-9 千野拓政「书面语的挑战—现代文学在中国和日本的起源」“现代文学与书写语言”国际研讨会论文集 p201-218, 北京大学, 2017 年 9 月
- *2-10 千野拓政「人文学の復興とは何か?」第 9 回東アジア人文学フォーラム論文集 p115-133, 早稲田大学, 2017 年 12 月
- 2016 年度**
- *2-11 鳥羽耕史「安部公房の生政治/死政治——「事業」から「R62 号の発明」へ」国文学研究 (180) 91-101 2016 年 10 月
- *2-12.鳥羽耕史「東アジア連環画の連環——中国から日本、韓国へ」アジア遊学(199)p.186-198, 2016 年

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

8月

- *2-13 鳥羽耕史「文壇とその外部——一九五〇年代のサークル詩集、生活記録集の編集をめぐる」文学 17(3)p.198-213、2016年6月
- *2-14 鳥羽耕史「2016 記録映画、テレビ、サブカルチャー研究とアーカイブの現状」日本近代文学 (94)p.212-218、2016年5月
- *2-15 千野拓政《动员方式的变迁与文化转折》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—(六)《花城》2016年第6期 p201-206、2016年11月
- *2-16.千野拓政《村上春树的孤独和救济》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—*(五)《花城》2016年第5期 p192-197、2016年9月
- *2-17.千野拓政《幸福国度的绝望青年》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—*(四)《花城》2016年第4期 p192-197、2016年7月
- *2-18 千野拓政《青年文化的来龙去脉》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—(三)《花城》2016年第3期 p203-208、2016年5月
- *2-19 千野拓政《中国诗歌的可能心——从杨键说开去》p55-57《东吴学术》2016年第2期 2016年4月、
复印报刊资料《中国现代、当代文学研究》2016年第6期に転載

2015年度

- *2-20 千野拓政《苦恼过海与角色文化》—东亚现代文化的转折と日本当代青年文化—(二)《花城》2016年第2期 p204-208、2016年3月
- *2-21 千野拓政《他们是哪里的年轻人?》—东亚现代文化的转折と日本当代青年文化—(一)《花城》2016年第1期 p203-208、2016年1月
- *2-22 千野拓政「—中国文学者からのコメント」《WASEDA RILAS JOURNAL》第3号 p281-285、早稲田大学総合人文科学研究センター2015年12月
<http://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2015/10/281.pdf>
- *2-23 貝澤哉「安酸敏眞先生のご報告「現(いま)在、あらためて《人文学》を問う」に寄せて」『WASEDA RILAS JOURNAL』NO. 3 p 287 - 290、2015年10月。
<https://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2015/12/7a09f396ff008219c46df6a8b52c8046.pdf>
- *2-24.藤本一勇「新しい唯物論」方法序説(素描)『現代思想』43/10号(青土社)p91-103、2015年
- *2-25.藤本一勇「他者性の分有——計算不可能なもの計算」『現代思想 総特集デリダ』43-2(青土社) p229-243、2015年
- *2-26 鳥羽耕史「『記録』としての幻灯——機動性を持つ社会運動のメディア」スプートニク p55 - 57、2015年10月
- *2-27 草原真知子「論考: デバイスアート」<特集・デバイスアート>日本バーチャルリアリティ学会誌 20-3、p15-22、2015年

2014年度

- *2-28 千野拓政<从青年亚文化看文化动员模式的变化>《中国图书评论》2015年第1期 p27-33、2015年1月
- *2-29.千野拓政<總體戰體制與中國現當代文化——從動員模式的變遷看二十世紀文化>《新地文學季刊 30號》(臺灣)p160-180、2014年12月
- *2-30 千野拓政「村上春樹と東アジア文化圏——その越境が意味するもの——」《WASEDA RILAS JOURNAL》第2号 p143-156、早稲田大学総合人文科学研究センター2014年10月
<http://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2014/10/57ab7e05f04bfa4b089ad4225a69aa0e.pdf>
- *2-31 千野拓政<东亚诸城市的亚文化与青少年的心理——动漫、轻小说、cosplay 以及村上春树>《东吴学术》2014年第4期 p41-62、2014年8月
- *2-32 千野拓政 Subculture in East Asia - An Overview《Japan SPOTLIGHT》September/October 2014、2014年7月(ウェブジャーナル)
- *2-33.藤本一勇「テクノロジーと来たるべきテキスト」、『思想』第1088号(岩波書店)、262-278頁、2014年
- *2-34 藤本一勇《Textologie à venir de Derrida》, conférence dans le cadre du colloque du CIPh organisé par Jiang Dandan, Shanghai Jiao Tong University, septembre 2014.
- *2-35 鳥羽耕史「日本研究における国際性とは」早稲田大学国際日本文学・文化研究所(WIJLC) News Letter(7)p.4、2015年02月
- *2-36 鳥羽耕史監修・文「地図で見る サークル文化の勃興」週刊 新発見! 日本の歴史(45)p.16-17、2014年05月

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

[グループ 3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって—

2018 年度

- 3-1. 鈴木正信『海部氏系図』と『円珍俗姓系図』『歴史と地理』715、2018 年 6 月、30～37 頁
- 3-2. 鈴木正信「武蔵国高麗郡と武蔵国造」『古代高麗郡の建郡と東アジア』高志所引、2018 年 5 月、124～142 頁
- 3-3. 渡邊義浩「洛陽新出曹魏墓と曹操高陵」『歴史文化研究(茨城)』5、2018 年 7 月、2～11 頁
- 3-4. 渡邊義浩「史」の文学性—范曄の『後漢書』『東洋研究』208、2018 年 9 月、1～24 頁
- 3-5. 渡邊義浩「劉向の『列女伝』と春秋三伝」『斯文』133、2018 年 9 月、20～36 頁
- 3-6. 渡邊義浩「常璩『華陽国志』にみえる一統への希求」『RILAS JOURNAL』6、2018 年 10 月、右 45～57 頁
- 3-7. 渡邊義浩「日本の古典としての漢籍」『近代人文学はいかに形成されたか』勉誠出版、2019 年 2 月、91～109 頁
- 3-8. 渡邊義浩「劉向の『列女伝』と『後漢書』列女伝」『中国女性史研究』28、2019 年 2 月、64～81 頁
- 3-9. 渡邊義浩「『顔氏家訓』における貴族像の展開と執筆意図」『東洋文化研究所紀要』175、2019 年 3 月、1～37 頁
- 3-10. 渡邊義浩「『顔氏家訓』における「家」と貴族像」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』64、2019 年 3 月、29～46 頁
- 3-11. 渡邊義浩「災異から革命へ—睦弘の上奏を中心として」『東洋の思想と宗教』36、2019 年 3 月、1～21 頁
- 3-12. 渡邊義浩「兩位“親魏”王—三世紀的東亞国際秩序」『第九届中日学者中国古代史論壇論文集』河南大学出版社、2018 年 5 月、12～29 頁
- *3-13. 早川万年(研究協力者)「津田左右吉「記紀批判」の前提」『津田左右吉とアジアの人文学』5、2019 年 3 月、1-6 頁
- *3-14. 田澤晴子(研究協力者)「文化史学と中国研究——津田左右吉『支那思想と日本』」『津田左右吉とアジアの人文学』5、2019 年 3 月、7-15 頁
- 3-15. 藤井なつみ(研究協力者)「早稲田大学関係雑誌所載早稲田大学・東アジア関係事項年表」『津田左右吉とアジアの人文学』5、2019 年 3 月、16-165 頁
- 3-16. 袁甲幸(研究協力者)「早稲田大学『校友会会員名簿』留学生関連情報データベース化作業報告書」『津田左右吉とアジアの人文学』5、2019 年 3 月、166-243 頁

2017 年度

- 3-17. 新川登亀男「文明(文字・ことば・思想)の移動—「天」概念を手掛りとして—」鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017 年 6 月、389～409 頁、総 573 頁
- 3-18. 新川登亀男「狩谷掖斎の『上宮聖徳法王帝説證注』」『狩谷掖斎 学業とその人』会津八一記念博物館 2017 年 11 月、54～60 頁、総 78 頁
- *3-19. 新川登亀男「近代日本の『科学』と『人文』概念—「哲・史・文」との関係—」『第 9 回東アジア人文学フォーラム—東アジアにおける人文学の復興—』早稲田大学総合人文科学センター、2017 年 12 月、69～86 頁、総 270 頁
- 3-20. 新川登亀男「文字資料と歴史の関係性を問う序説—上宮王家襲撃・滅亡記事をめぐって—」新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』勉誠出版 2018 年 1 月、3～27 頁、総 852 頁
- 3-21. 新川登亀男『漢字文化の成り立ちと展開』山川出版社、2018 年 3 月増刷、総 103 頁
- 3-22. 東野治之・新川登亀男ほか『法隆寺献納宝物特別調査概報 XXXVIII 古今目録抄 4』東京国立博物館、2018 年 3 月、総 136 頁
- 3-23. 鈴木正信「公職の人と文 史書」河野貴美子ほか編『日本「文」学史』第 2 冊、勉誠出版、2017 年 6 月、176-186、総 560 頁
- 3-24. 鈴木正信「蘇我氏とヤマト王権」佐藤信編『古代史講義—邪馬台国から平安時代まで』筑摩書房、2018 年 1 月、53-71、総 286 頁
- 3-25. 鈴木正信「高麗王若光と武蔵国高麗郡」新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』勉誠出版、2018 年 1 月、335-352、総 864 頁
- 3-26. 鈴木正信「凡直氏と国造制」加藤謙吉編『日本古代の氏族と政治・宗教』雄山閣、2018 年 3 月、111-132、総 232 頁
- 3-27. 渡邊義浩「東晋における史評の隆盛と袁宏の『後漢紀』」『中国文化—研究と教育』75、2017 年 6 月、1～15 頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- 3-28.渡邊義浩「干宝の『晋紀』と『左伝体』」『東洋研究』204、2017年7月、49～73頁
- 3-29.渡邊義浩「『史記』における『春秋』の継承」RILASJOURNAL5、2017年10月、511～520頁
- 3-30.渡邊義浩「班孟堅の忠臣—顔師古『漢書』注にみる「史」の「経」への回帰」『東洋文化研究所紀要』172、2017年12月、1～36頁
- 3-31.渡邊義浩「『漢書』が描く「古典中国」像」『日本儒教学会報』2、2018年1月、71～97頁
- 3-32.渡邊義浩「中国古典と津田左右吉」『津田左右吉とアジアの人文学』4、2018年3月、1～26頁
- 3-33.渡邊義浩「『古史考』と『帝王世紀』—儒教に即した上古史と生成論」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』63、2018年3月、63～78頁
- 3-34.渡邊義浩「劉歆の「七略」と儒教一尊」(『東洋の思想と宗教』35、2018年3月、1～26頁)
- 3-35.真辺将之「「大隈祭」における講演活動 停滞は死滅である:大隈重信の生涯と人間像」『早稲田大学史記要』49、2018年3月、41-70頁
- 3-36.十重田裕一「黒田大河著『横光利一とその時代:モダニズム・メディア・戦争』」『昭和文学研究』76、2018年3月、234～236年
- 2016年度
- 3-37.鈴木正信「婆罗门僧正菩提仙那传记的抄本和印本」『早稲田大学日本古典籍研究所年報』第10 2017年3月 138-144頁
- *3-38.真辺将之「日本近代史研究的動向と若干問題」『南开日本研究』2016年12月 185-197頁
- 3-39.渡邊義浩「『世説新語』の編纂意図」『東洋文化研究所紀要』170 2016年12月 1-40頁
- *3-40.十重田裕一「占領期メディア検閲と横光利一『旅愁』—ブランゲ文庫所蔵の校正からの視点」『文学』17-6 岩波書店 2016年11月 .276-290頁
- 3-41.鈴木正信「『海部氏系図』の成立背景—祝と始祖の記載をめぐって—」『日本歴史』822 2016年11月.1-16頁
- 3-42.鈴木正信「武蔵国高麗郡の建郡と大神朝臣狛麻呂」河野貴美子・王勇編『アジア遊学』199 勉誠出版 2016年8月 .67-79頁
- 3-43.渡邊義浩「『世説新語』劉孝標注における『史』の方法」『三国志研究』11 2016年9月 47-60頁
- 3-44.新川登亀男「宇陀地域の生活・生業と上宮王家—菟田諸石を手がかりとして—」河野貴美子・王勇編『アジア遊学』199 勉誠出版 2016年8月 .16-33頁
- *3-45.新川登亀男「2015年の歴史学界・日本古代史回顧と展望」『史学雑誌』125-5 2016年5月.37-40,61-63頁
- *3-46.鈴木正信「2015年の歴史学界・日本古代史回顧と展望」『史学雑誌』125-5 2016年5月 43-45頁
- 2015年度
- *3-47.新川登亀男「漢字文化圏の成立—日本列島の立ち位置を考える準備」『EURO—NARASIA』3、2016年2月、31～39頁
- *3-48.渡邊義浩「中国の津田左右吉評価と日中の異別化」『津田左右吉とアジアの人文学』2、46～52頁
- *3-49.鶴見太郎「柳田民俗学と漢字」『国際日本学』13、2015年12月、91—99頁
- *3-50.鶴見太郎「郷土、地方からの視点形成」『二十世紀研究』16、2015年12月、17—38頁
- 3-51.鈴木正信「海部氏系図」の基礎的研究」京丹後市教育委員会編『丹後・東海地方の文化方言等調査事業報告書』2015年5月、108～127頁、全256頁
- 3-52.鈴木正信「Development and Dispersal Process of Ancient Japanese Clan」『WiAS Research Bulletin』8、2016年3月、65～78頁
- 2014年度
- 3-53.新川登亀男「法隆寺金堂釈迦三尊像光背銘の成り立ち」(『国立歴史民俗博物館研究報告』194、2015年3月、277～326頁
- 3-54.十重田裕一「松本清張と新聞小説」(『松本清張研究』16、2015年3月、30～41頁
- 3-55.真辺将之「近代日本における動物と人間—鯨・犬・馬を題材として—」『早稲田大学文学研究科紀要』60-4、2015年2月、19～36頁
- *3-56.真辺将之「東京専門学校における接続問題と大学昇格問題」(『近代日本研究』31、2015年2月、73～108頁
- 3-57.鈴木正信「Methodology for Analyzing the Genealogy of Ancient Japanese Clans」『WiAS Research Bulletin』7、2015年3月、17～27頁
- 3-58.渡邊義浩「『抱朴子』の歴史認識と王導の江東政策」『東洋文化研究所紀要』166、2014年12月、1～27頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- *3-59.渡邊義浩「定州『論語』と『齊論』」(『東方学』128、2014年11月、56～72頁)
 3-60.渡邊義浩「葛洪の文学論と『道』への指向」(『東方宗教』124、2014年11月、1～17頁)
 3-61.鶴見太郎「対話する中野重治—柳田國男の影—」(『三田文學』夏号(118)、2014年7月、248～259頁)
 3-62.鈴木正信「上野国美和神社の官社化と神階奉授」(『桐生史苑』53、2014年6月、3～23頁)
 3-63.井上亘「禰軍墓誌『日本』考」(『東洋学報』95-4、2014年3月、1～28頁)

<図書>

[グループ 1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

2018年度

- *1-100.海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と人文学の形成』、吉川弘文館、総頁 264 頁、2019年3月
 *1-101.甚野尚志、河野貴美子、陣野英則編『近代人文学はいかに形成されたか—学知・翻訳・蔵書』、勉誠出版、総頁 432 頁、2019年2月
 *1-102.甚野尚志編『福島県立図書館所蔵の朝河貫一資料目録』改訂版、福島県立図書館、2019年1月
 *1-103 橋本一径『〈他者〉としてのカニバリズム』、水声社、2019年3月

2017年度

- 1-104.河野貴美子、Wiebke DENECKE、新川登亀男、陣野英則、谷口眞子、宗像和重編、『日本「文」学史 A History of Japanese “Literature” 第二冊「文」と人びと——継承と断絶』、勉誠出版 2017年6月

2016年度

- *1-105.海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』、吉川弘文館、2017年3月、総頁 264 頁
 *1-106.根占献一『イタリアルネサンスとアジア日本』、知泉書館、2017年2月、総頁 245 頁
 1-107.梅森直之『初期社会主義の地形学(トポグラフィー)』、有志舎、2016年9月
 1-108.小峯和明・金英順編訳、(分担執筆)河野貴美子、『海東高僧伝』、平凡社、2016年9月、分担執筆頁 182～206 頁、総頁 392 頁
 1-109.河野貴美子・王勇編『アジア遊学 199 衝突と融合の東アジア文化史』、勉誠出版、2016年8月、総頁 199 頁

2015年度

- 1-110.飯山知保『『西隠文稿』からみた元明交替と北人官僚』、『宋代史研究会研究報告集第 10 集 中国伝統社会への視角』、東京: 汲古書院、2015年、91-124 頁。
 1-111.河野貴美子「身延文庫蔵《弘決外典鈔》古鈔本初探」,劉玉才・潘建国主編『日本古鈔本与五山版研究論叢』(北京大学出版社), 2015年, 199 - 217 頁
 1-112.河野貴美子『『源氏物語』古注釈書にみる和漢の往還—『光源氏物語抄』所引漢籍考—』, 小山利彦・河添房江・陣野英則編『王朝文学と東ユーラシア文化』(武蔵野書院), 2015年, 105- 131 頁
 1-113.河野貴美子, Wiebke DENECKE, 新川登亀男, 陣野英則(共編著)『日本「文」学史 第一冊「文」の環境—「文学」以前』, 勉誠出版, 2015年, 総 552 頁。
 1-114.陣野英則『『うつほ物語』と『源氏物語』の学問—物語は読者を学問へといざなうか—』, 小山利彦・河添房江・陣野英則編『王朝文学と東ユーラシア文化』, 武蔵野書院, 2015年, 83-104 頁。
 1-115.陣野英則『源氏物語論—女房・書かれた言葉・引用—』, 勉誠出版, 2016年, 総 528 頁。
 1-116.甚野尚志 「12 世紀ルネサンスとギリシア教父の影響—ポワティエのジルベールの神学とフゴー・エテリアヌス—」, 甚野尚志・益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』, 知泉書館, 2016年, 41-60 頁
 1-117.根占献一「ヨーロッパ史から見たキリタン史」, 清水光明編『「近世化」論と日本—「東アジア」の捉え方をめぐって』, 勉誠出版, 2015年, pp.164-171。
 1-118.根占献一 「再生と充溢としてのルネサンス観とその今日的課題—東西を結ぶルネサンス概念」, 甚野尚志・益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』, 知泉書館, 2016年, .61-85 頁。
 1-119.甚野尚志(草光俊雄との共編著)、『ヨーロッパの歴史 I』放送大学教育振興会、2015年3月、262 頁(総頁数)
 1-120.柳澤明「《満文内国史院档》天聰五年部分及其資料価値」, 白文煜主編『清前歴史与盛京文化: 清前史研究中心成立暨紀念盛京定名 380 周年學術研討会』, 遼寧民族出版社, 2015年, 上卷, pp.344-352。

2014年度

- 1-121.根占献一(翻訳)、E.H.ハービンソン『キリスト教的学識者—宗教改革時代を中心に—』、知泉書館、2015年2月、総頁 231 頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

1-122.井上文則(翻訳)、A・スパルティアヌス他著『ローマ皇帝群像 4』、京都大学学術出版会、2014 年、
総 376 頁

[グループ 2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

2018 年度

*2-37 千野拓政編『越境する東アジアの文化を問う—新世紀の文化研究』320 頁、ひつじ書房、2019 年 3 月

*2-38 谷口眞子、デュッソド・オディール、松永美穂編『サムライ・イメージの光と影—国際日本学の観点から—』、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・第2グループ、400 頁、2019 年 1 月

2016 年度

*2-39 鳥羽耕史、石崎等、石割透、大屋幸世、木谷喜美枝、中島国彦編『日本近代文学年表』鼎書房 2017 年 2 月、総ページ数 158

*2-40 鳥羽耕史、宇野田尚哉、川口隆行、坂口博、中谷いずみ、道場親信編『「サークルの時代」を読む—戦後文化運動研究への招待』、影書房、2016 年 12 月

*2-41 藤本一勇「サルトルとデリダの「視覚」」、澤田直・斎藤元紀・渡名喜庸哲・西山雄二編『終わりなきデリダ』法政大学出版局、2016 年

*2-42 Machiko Kusahara “Proto-Media Art: Revisiting Japanese Postwar Avant-garde Art”, pp.111-145 *A Companion to Digital Art*, ed. Christian Paul, WILEY Blackwell, 2016

2015 年度

*2-43 草原真知子、分担執筆「デジタルメディア時代のアート」(pp.213-231) 石田栄敬/吉見俊哉/マイク・フェザーストン編 デジタル・スタディーズ第 2 巻「メディア表象」第 8 章東京大学出版会、2015 年 9 月

*2-44 Machiko Kusahara “Bridging Art, Technology, and pop culture: some aspects of Japanese new media art today”, pp.66-79 *Routledge Hand book of New Media in Asia*, ed. Larissa Hjorth and Olivia Khoo, Routledge, 2015

*2-45 草原真知子「アルスエレクトロニカ」日本バーチャルリアリティ学会「アルスエレクトロニカ小特集」誌 20-4, pp.310-312、2015 年

2014 年度

*2-46 藤本一勇『現代思想』2015 年 2 月臨時増刊号、総特集デリダ、2015 年 2 月

*2-47 草原真知子、分担執筆「メディアテクノロジーとしての幻燈」、土屋紳一/大久保遼/遠藤みゆき編『幻燈スライドの博物誌—プロジェクション・メディアの考古学』pp.24-29、青弓社 2015 年 3 月

[グループ 3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって—

2018 年度

*3-64 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏」第三研究グループ「早稲田大学と東アジア」編『津田左右吉とアジアの人文学』5 号、早稲田大学、2019 年 3 月、1-243 頁

*3-65 渡邊義浩・黒崎恵輔・関俊史・滝口雅依子『津田左右吉訳稿集 トマス・カーライル「偉人崇拜論」』(早稲田大学文学学術院、2019 年 3 月、1-125 頁)

*3-66 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏」編『新しい人文学への展望』早稲田大学、2019 年 3 月、1-52 頁

3-67.渡邊義浩『全譯顔氏家訓』汲古書院、2018 年 11 月、1-342 頁

3-68.ロバート＝キャンベル・十重田裕一・宗像和重(編)『東京百年物語』岩波書店、2018 年 10 月、1-329 頁

3-69.中村明・佐久間まゆみ・高崎みどり・十重田裕一・半沢幹一・宗像和重(編)『日本語文章・文体・表現事典』朝倉書店、2018 年 5 月、1-793 頁

2017 年度

*3-70.私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏」第三研究グループ「早稲田大学と東アジア」編『津田左右吉とアジアの人文学』4 号 早稲田大学 2018 年 3 月 全 129 頁

3-71.新川登亀男(編)『日本古代史の方法と意義』勉誠出版、2018 年 1 月、1-852 頁

3-72.鈴木正信『日本古代の氏族と系譜伝承』吉川弘文館、2017 年 4 月、1-520 頁

3-73.渡邊義浩『「古典中国」における小説と儒教』汲古書院、2017 年 5 月、1-301 頁

3-74.渡邊義浩(編)『中国史学の方法論』汲古書院、2017 年 5 月、1-301 頁

3-75.渡邊義浩『三国志事典』大修館書店、2017 年 5 月、1-388 頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

2016 年度

- *3-76.海老澤衷「鎌倉幕府成立と惟宗忠久—朝河貫一研究との関連」海老澤衷・近藤成一・甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』吉川弘文館 pp.129-169 2017 年 3 月(グループ 1.3 の共同成果) 129-169 頁
- *3-77.私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏」第三研究グループ「早稲田大学と東アジア」編『津田左右吉とアジアの人文学』3 号 早稲田大学 2017 年 3 月 全 129 頁
- *3-78.植田康夫・紅野謙介・十重田裕一編『岩波茂雄文集』全三巻 岩波書店 2017 年 1~3 月
- 3-79.Atuko Ueda, Richi Sakakibara, Michael Bourdabhs, Hirokazu Toeda. *Politics and Literature Debate: Postwar Japanese Criticism 1945-1952*, Lexington Books, 2017
- *3-80.真辺将之『大隈重信—民意と統治の相克』中央公論新社 2017 年 2 月 全 500 頁
- 3-81.吉川真司監修・井上亘主編『古代日語—本通』南開大学出版社 2017 年 3 月
- 3-82.劉雨珍監修・井上亘主編『現代日語—本通』南開大学出版社 2017 年 3 月
- 3-83.鈴木正信『Clans and Genealogy in Ancient Japan』, Routledge (UK) 2017 年 2 月 全 296 頁
- *3-84.十重田裕一「占領期日本の検閲と川端康成の創作—『過去』『生命の樹』『舞姫』を中心に」, 紅野謙介・十重田裕一・和田博文・セシル坂井・マイケルポーダッシュ編『川端康成 21 世紀再読—モダニズム、ジャポニスム、神話を越えて』笠間書院 2016 年 12 月 193-203 頁
- 3-85.鶴見太郎「中野重治と石堂清倫」『中野重治展 ふる里への思い、そして闘い』福井ふるさと文学館 2016 年 10 月 55-59 頁
- 3-86.渡邊義浩主編『全釋後漢書 別冊 後漢書研究便覧』汲古書院、2016 年 12 月、1-276 頁
- 3-87.渡邊義浩主編『全釋後漢書 列傳(八)』汲古書院、2016 年 9 月、1-820 頁
- 3-88.鶴見太郎「日常からの挑戦」鶴見太郎編『日常からの挑戦』リーディングス・戦後日本の思想水脈 第 4 巻、2016 年 9 月、255-305 頁
- 3-89.渡邊義浩『春秋左氏伝序』と『史』の宣揚『狩野直禎先生米寿記念三国志論集』三国志学会、2016 年 9 月、243-267 頁
- 3-90.十重田裕一「引き裂かれた『旅愁』の軌跡」横光利一『旅愁』上、岩波書店、2016 年 8 月、561-579 頁
- 3-91.鈴木正信『Clans and Religion in Ancient Japan』, Routledge (UK)、2016 年 5 月、1-170 頁
- 3-92.新川登亀男「橘諸兄」佐藤信編『古代の人物 2 奈良の都』清文堂、2016 年 4 月、155-184 頁

2015 年度

- *3-93.『津田左右吉とアジアの人文学』1・2 号 2016 年 3 月各全 123・105 頁
- *3-94.井上亘『古代官僚制と遣唐使の時代』同成社、2016 年 3 月、全 353 頁
- 3-95.渡邊義浩主編『全譯後漢書』志(四)天文汲古書院、2015 年 12 月、140 頁
- *3-96.渡邊義浩編『中国史の時代区分の現在』汲古書院、2015 年 10 月、462 頁
- *3-97.新川登亀男「文」と非「文」の世界」河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編『日本「文」学史 第一冊 「文」の環境—「文学」以前』勉誠出版、2015 年 9 月、97~142 頁
- *3-98.渡邊義浩「古代中国における「文」の概念の展開」河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編『日本「文」学史 第一冊 「文」の環境—「文学」以前』勉誠出版、2015 年 9 月、41~68 頁
- 3-99.渡邊義浩主編『全譯後漢書』列傳(八)汲古書院、2015 年 8 月、908 頁
- *3-100.渡邊義浩「古典中国」における文学と儒学』汲古書院、2015 年 4 月、全 335 頁
- 3-101.鈴木正信「円珍俗姓系図」の構造と原資料」加藤謙吉編『日本古代の王権と地方』大和書房、2015 年 4 月、471~501 頁
- 3-102.鶴見太郎「中野重治—反復する過去」栗原彬・吉見俊哉編『ひとびとの精神史 1 敗戦と占領—1940 年代』岩波書店、232-255 頁

2014 年度

- 3-103.新川登亀男『梁職貢図』と『梁書』諸夷伝の上奏文」(鈴木靖民・金子修一編『梁職貢図と東部ユーラシア世界』勉誠出版、2014 年 5 月、166~197 頁
- *3-104.新川登亀男編『仏教文明の転回と表現』勉誠出版、2015 年 3 月、全 655 頁
- *3-105.新川登亀男「倭の入隋使(第一回遣隋使)と倭王の呼称」(新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序』勉誠出版、2015 年 3 月、117~150 頁
- 3-106.海老澤衷・高橋敏子編『中世荘園の環境・構造と地域社会』勉誠出版、2014 年 6 月、全 376 頁
- 3-107.海老澤衷「備中国新見荘の調査と『多層荘園記録システム』」(海老澤衷編『中世の荘園空間と現代』勉誠出版、2014 年 12 月、163~180 頁
- 3-108.渡邊義浩編『全譯後漢書 輿服志』汲古書院、2015 年 3 月、全 166 頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- 3-109. 鶴見太郎「渋沢敬三による渋沢栄一の顕彰—方法的側面から—」(平井雄一郎・高田和友編『記憶と記録のなかの渋沢栄一』法政大学出版局、2014年8月、19~45頁)
- 3-110. 安藤宏、栗原敦、紅野謙介、十重田裕一、中島国彦、宗像和重編『近代文学草稿・原稿研究事典』八木書店、2015年2月、全403頁
- 3-111. 十重田裕一「植民地を描いた小説と日本における二つの検閲—横光利一『上海』をめぐる言論統制と創作の葛藤」(紅野謙介他編『帝国の検閲—文化の統制と再生産』新曜社、2014年8月、241~251頁)
- *3-112. 井上亘『偽りの日本古代史』同成社、2014年12月、全159頁

<学会発表>

[グループ 1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

2018年度

1-123. 柳澤 明 Акира Янагисава (Akira Yanagisawa), “Международный акт 1792 года как источник консульской юрисдикции” (The International Protocol of 1792 as an Origin of Consular Jurisdiction), Международная научная конференция “Кяхта: истории, наследие и современность” (The International Symposium “History, Heritages and the Future of Kyakhta”), 14 September 2018, at State Autonomous Cultural Institution of the Republic of Buryatia “Kyakhta Musium of Local Lore of Academician V. A. Obruchev.” 査読なし, ロシア語

1-124. 柳澤明 Akira Yanagisawa, “Population shifts and ethnic transformation of Non-Chinese groups in the 17-18 centuries Manchuria”, at “Migration, Occupation, and Indigenous Identity in Early Modern Northeast China” in the Association for Asian Studies 2019 Annual Conference, March 22, 2019 at the Sheraton Denver Downtown Hotel, Colorado, USA. 査読なし, 英語

2017年度

1-125. 柳澤明、「17~19世紀の露清外交と媒介言語」『北東アジア研究』(島根県立大学 北東アジア地域研究センター), 別冊第3号, 2017年9月, 147-162頁

1-126. 柳澤明、「十八世紀土爾扈特部派往西藏の三個使団」“清朝政治發展變遷研究”国際学術研究会, 復旦大学歴史地理研究中心(中国・上海), 2017年6月17日

1-127. 基野尚志、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏」、ワークショップ「朝河貫一の教育活動」、2017年7月15日(土)、早稲田大学戸山キャンパス、報告「朝河貫一の西洋中世史の研究と教育活動」

1-128. 基野尚志、「日本の近代歴史学と概念化の問題—「封建制」概念をめぐる—」、第9回東アジア人文学フォーラム「東アジアにおける人文学の復興(Reconstruction of the Humanities in East Asia)」、2017年12月17日、早稲田大学小野記念講堂

2016年度

1-129. 飯山知保、「『西隠文稿』所見的元明交替与北人官僚」, “十一—十三世紀東亞史の新可能性” 首届中日青年学者宋遼夏金元史研討会, 上海: 復旦大学光華楼東輔楼 101 會議室, 中華人民共和国(中国語), 2016年9月25日.

1-130. 飯山知保、「明朝の華北征服与社会變動」, 郎潤宋遼金元史青年學術沙龍第七場, 北京: 北京大学中国古代史研究中心報告庁, 中華人民共和国(中国語), 2016年9月24日.

1-131. 飯山知保、「石刻史料与金元華北地方社会」, RUC 歴史考古沙龍 8, 北京: 中国人民大学博物館 202, 中華人民共和国(中国語), 2016年9月23日.

1-132. 飯山知保、「華北社会歴史的蒙元統治與其影響」, “歴史學研究の問題與路徑” 學術研討會, 廈門: 天鵝大酒店 2 樓會議室, 中華人民共和国(中国語), 2016年11月6日.

1-133. 飯山知保、「碑刻史料与 12 至 16 世紀華北社会史研究」, 招待講演, 広州: 暨南大学文学院 五樓古籍所會議室, 中華人民共和国(中国語), 2016年4月23日.

1-134. 飯山知保, “‘Actually, We Are Mongols!’: Ancestral Narratives and Identity Shifts Derived from Yuan Steles in North China, ca.1400 to Today,” Invited Talk, Lecture Room 108, Joukowsky Institute for Archaeology and the Ancient World, Brown University, US(英語), March 10, 2017.

1-135. 飯山知保, “How Did the Mongol Rule End?: The Life of Song Na (1311-1390) during the Yuan-Ming Transition in North China,” “New Directions in Central and

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- Inner Asian History” Workshop, room S354, CGIS, Harvard University, US(英語), March 7, 2017.
- 1-136.飯山知保,“An Introduction to Epigraphic Field Research in Rural North China,” Invited talk at the Council on East Asian Studies at Yale University, Room 301, Rosenkranz Hall, Yale University, US(英語), March 3, 2017.
- 1-137.飯山知保,「蒙元時期碑刻与明代華北社会研究」,「知識的構成與實踐」論壇, 中国宋史研究会第十七届年会, 広州: 中山大学嶺南堂黄炳礼室, 中華人民共和国(中国語), 2016年8月21日.
- 1-138.飯山知保,“Engraving Genealogy: The Emergence of New Epigraphic Practices and Lineage Formation in Yuan-Ming-Qing North China,” in Panel “New Traditions in Local Settings in Post-Mongol China: The Adaptation and Localization of Ritual Practices and Religious Beliefs,” AAS-in-Asia 2016, room SK 104, Shikokan, Doshisha University, Kyoto, Japan (英語), June 25, 2016.
- 1-139.河野貴美子,清原宣賢所撰「抄物」与明代書籍、「明代的書籍与文学」国際学術研討会(寧波市天一閣博物館、復旦大学古籍整理研究所主催)、招待有り、2016年12月4日、中国寧波市天一閣。
- 1-140.河野貴美子,《北京人文科学研究所蔵書目録》中的「鈔本」研究初探、日本漢文古写本の整理研究与中日学術交流史第二届写本論壇、2016年11月4日、中国・小湯山国際商務官員研修中心。
- 1-141.河野貴美子,Legend, Lexicon, Commentary: The Lotus Sutra in Japanese Letters、AJLS 2016(Association of Japanese Literary Studies Conference: WORD/IMAGE/JAPAN) 2016年10月29日、Pennsylvania State University’s Department of Asian Studies, the Center for Global Studies, the Department of Comparative Literature, and the North-east Asia Council.
- 1-142.河野貴美子,中国古文献在日本的傳承、東北亜走廊研究院学術講座、招待有り(講演)、2016年9月10日、渤海大学東北亜走廊研究院
- 1-143.河野貴美子,東アジアにおける漢籍の伝播と共同体の構築——日本と渤海の外交における文書を例として、渤海大学「多元視覚下亜洲共同体意識的発現与共同体の建構」系列講(一般財団法人ワンアジア財団プロジェクト)、招待有り(講演)、2016年9月9日、渤海大学。
- 1-144.河野貴美子,渤海との外交における文事と白居易、平成二十八年度中古文学会春季大会 大会企画シンポジウム《平安朝文学と白氏文集》、2016年5月21日、早稲田大学。
- *1-145.橋本一徑,「ロンドンの足跡、東京の指紋——南方熊楠とヘンリー・フォールズ」、特別企画展講演会「ロンドン時代の南方熊楠」、南方熊楠顕彰館,2016年05月03日
- *1-146.甚野尚志, The Doctrine of Tyrannicide of Juan de Mariana and its Medieval Origins, “Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan, Third Meeting, Religion and violence”, 2016年11月25-26日, ブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ歴史研究所(トレント、イタリア)
- 1-147.柳澤明,「17~19世紀の露清外交と媒介言語」人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「北東アジアにおける近代的空間の形成とその影響」第1回国際シンポジウム 2016「北東アジア: 胎動期の諸相」,2016年11月20日,島根県立大学
- 1-148.柳澤明,“The three Kalmyk embassies to Tibet in 18th century and Qing’s reaction to them”The Nature of Inner- and East Asian Polities and Inter-polity Relations in the 18th and 19th centuries, focusing on Qing -Tibetan-Mongol relations; Perspectives from Contemporary Sources. Seminar at the Institute of Central Eurasian History and Culture, Waseda University, co-hosted by Kredha. 6 March 2017, at Waseda University
- *1-149.柳澤明,「巴爾虎人的遷徙与姓氏」中華人民共和国国家外国專家局重点引智項目“17-19世紀黑龍江流域民族文化變遷研究”外国專家学術講座,2016年10月30日,大連民族大学
- 1-150.冬木ひろみ,招待発表「シェイクスピアの視覚的表象をめぐって」(シンポジウム「多面体としてのシェイクスピア」),日本シェイクスピア学会北海道支部第61会大会(於北海道教育大学旭川校),2016年10月29日
- 1-151.橋本一徑,«“Debunking”, ou le nouvel enjeu de la retouche photographique à l’ère numérique »,国際ワークショップ「真実性の彼岸」: 写真的経験再考,早稲田大学,2016年10月25日
- 1-152.飯山知保,「郊祀覃恩所代表的金代“皇帝”形象之一端」,“《事林広記》与宋金元明社会研究”課題組学術研討会, 広州: 暨南大学文学院四樓歴史系会議室, 中華人民共和国(中国語), 2016年4月24日
- *1-153.橋本一徑, “An Unfaithful Trace: A History of “Life-size” Photography.” フンボルトコレク東京 東京大学,2016年04月10日

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

2015 年度

1-154. 甚野尚志, “Political Metaphor and Imitation of Nature in the Medieval Mirrors for Princes”, Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan, Second Meeting, 2015 年 12 月 11-12 日, ブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ歴史研究所(トレント、イタリア)

2014 年度

1-155. 甚野尚志, “Pentarchia as the five senses of the human body—The idea of Church by Eastern Orthodox intellectuals and its relation to the organic concept of society in medieval western Europe”, Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan, First Meeting, 2014 年 10 月 17-18 日, ブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ歴史研究所(トレント、イタリア)

【グループ 2】 ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

*2-48 鳥羽耕史、学術報告「叛乱の年か「明治百年」か? : 1968 年日本の文化的スペクトルについて」、国際シンポジウム『言葉と暴力: 1968 年日本の異議申し立てのグローバルヒストリーと今日における意味』ライデン大学、2018 年 08 月 21 日

*2-49 鳥羽耕史、学術報告「「明治百年」と安部公房: 『榎本武揚』の戯曲化をめぐる」、トランスパシフィック・ワークショップ、ワシントン大学、2018 年 06 月 09 日

*2-50 鳥羽耕史、講演「安部公房と戦後日本の実験的テレビドラマ」、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、2018 年 06 月 06 日

*2-51 鳥羽耕史、学術報告「安部公房と民族意識」、国際シンポジウム「通ることの詩学: 在日の文化生産における他者としての自己偽装を問う」、ミシガン州立大学、2018 年 04 月 20 日

*2-52 オディール・デュストド、学術報告「20 世紀前半(1905 年~1945 年)の新聞に表象されたサムライ・イメージ—愛国的騎士から集団主義的ファシストへ」、ワークショップ『1930's~1940's のサムライ・イメージ』(第 10 会議室)(2018 年 10 月 3 日)

*2-53 谷口眞子、学術報告「1930 年代の武士道とサムライ・イメージ—「葉隠」を中心に—」ワークショップ『1930's~1940's のサムライ・イメージ』(第 10 会議室)(2018 年 10 月 3 日)

*2-54 松永美穂、学術報告「ナチ時代の「サムライ精神」」ワークショップ『1930's~1940's のサムライ・イメージ』(第 10 会議室)(2018 年 10 月 3 日)

*2-55 貝澤哉、学術報告「人文科学方法論の基礎と現代的課題: G.シペート、M.バフチンの理論的探究より」シンポジウム「新しい人文学への展望——過去・現在・未来」(私立大学戦略的基盤形成支援事業) 第 1 会議室、2018 年 12 月 22 日

*2-56 松永美穂、ゲストスピーカー、シンポジウム「翻訳の歴史」(東京外国語大学)2018 年 11 月 28 日

*2-57 千野拓政招待講演《东亚诸城市的青年文化与青少年的心理》(南京师范大学)2018 年 4 月 28 日

*2-58 千野拓政、学術報告 Cultural transformation of East Asia and readers (Crossroad in Shanghai 2018) 2018 年 8 月 13 日

*2-59 千野拓政、学術報告「人文学はどこへ行くのか? —第 2 グループの試み」、シンポジウム「新しい人文学への展望——過去・現在・未来」(私立大学戦略的基盤形成支援事業) 第 1 会議室、2018 年 12 月 22 日

*2-60 千野拓政、学術報告 Exploring the birth of modern Chinese literature from three diaries——Luxun (鲁迅) and Gogol's *A Madman's Diary* (《狂人日记》) and Zhou Shoujuan (周瘦鹃)'s *Duanchang Riji* (《断肠日记》) (*diary of grief*)、(International Conference to Mark 100 Years of Lu Xun's *A Madman's Diary*) Jawaharlal Nehru University

2017 年度

*2-61 鳥羽耕史、学術報告「文化運動のなかの民衆と伝統」戦後空間シンポジウム 01 民衆・伝統・運動体(日本建築学会 建築歴史・意匠委員会(企画:同委員会 戦後空間 WG)) 建築会館ギャラリー、2017 年 12 月 16 日

*2-62 鳥羽耕史、学術報告「日本研究の国際化とナショナリズム——安部公房と在日文学研究を事例に」、国際シンポジウム「東アジアの文学・文化研究の国際化とナショナリズムの陥穽」(私立大学戦略的基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏 —東アジアにおける人文学の危機と再生」第 2 グループ) 第 1 会議室、2017 年 12 月 09 日

*2-63 鳥羽耕史、学術報告「過去、自己、そして共同体: 安部公房の反復と更新」、UCLA トランスパシフィック・ワークショップ、2017 年 06 月 10 日

*2-64 鳥羽耕史、講演「植民地の複数の来世: 安部公房から「スキヤキ」まで」、シカゴ大学、2017 年 05 月 18 日

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- *2-65 鳥羽耕史、講演「植民地の複数の来世：安部公房から「スキヤキ」まで」、コロンビア大学、2017 年 04 月 25 日
- *2-66 鳥羽耕史、学術報告「1950 年代のサークル運動と東アジアへの想像力」、在日文学ワークショップ、リーハイ大学、2017 年 04 月 22 日
- *2-67 貝澤哉、学術報告「人文科学方法論の基礎的問題と現代的課題へのアプローチ：G.シペート、M.バフチンの理論的探究を手がかりとして」第 9 回東アジア人文学フォーラム「東アジアにおける人文学の復興」、小野講堂、2017 年 12 月 16 日
- *2-68 藤本一勇、学術報告「二つの「世界／セカイ」の狭間—『君の名は。』と『この世界の片隅に』」国際シンポジウム：東アジアと世界の「君の名は。」2018 年 1 月 20 日、第 1 会議室
- *2-69 松永美穂、ゲストスピーカー、シンポジウム「森鷗外と多和田葉子」日本比較文学会（於：山形大学）2017 年 6 月 18 日
- *2-70 松永美穂、ゲストスピーカー、シンポジウム「翻訳の創造性」（於：東京外国語大学）2017 年 11 月 29 日
- *2-71 千野拓政、学術報告《从三个日记谈中国现代文学的诞生—鲁迅和果戈理的《狂人日记》与周瘦鹃的《断肠日记》》“世界华文区域关系与跨界发展”国际学术研讨会（浙江大学）2017 年 4 月 6 日
- *2-72 千野拓政、招待講演《東亞諸城市的青年文化與慶好年的心理》香港浸會大學、2017 年 5 月
- *2-73 千野拓政、学術報告《总体战・冷战时期的文学与中国民主的命运—从赵树理、黄继光说开去》中国社会科学院、2017 年 8 月
- *2-74 千野拓政、学術報告《书面语的挑战—现代文学在中国和日本的起源》“现代文学与书写语言”国际研讨会（北京大学）、2017 年 9 月 21 日
- *2-75 千野拓政、学術報告「人文学の復権とは何か？」第 9 回東アジア人文学フォーラム『東アジアにおける人文学の復興』、小野講堂、2017 年 12 月 16 日
- *2-76 千野拓政招待講演《从北斋到宫崎骏》浙江大学、2018 年 3 月 20 日
- *2-77 千野拓政招待講演《现代文学在中国和日本的诞生》浙江大学、2018 年 3 月 21 日
- *2-78 千野拓政招待講演《从动漫看今天的青年文化》南京大学、2018 年 3 月 21 日
- *2-79 千野拓政招待講演《从北斋到宫崎骏》华东师范大学、2018 年 3 月 22 日
- 2016 年度
- *2-80 鳥羽耕史、講演「植民地の複数の来世：安部公房から「スキヤキ」まで」、カリフォルニア大学バークレー校、2017 年 03 月 14 日
- *2-81 鳥羽耕史、学術報告「サークル運動と作者」、国際シンポジウム『<作者>とは何か：東アジアとヨーロッパにおける歴史と実践』、コロンビア大学、2017 年 03 月 11 日
- *2-82 鳥羽耕史、学術報告「戦後文化運動研究の成果と課題」東アジア日本研究者協議会第一回国際学術大会「東アジア冷戦と 1950 年代日本の文化運動」パネル、韓国仁川 Songdo Convensia、2016 年 12 月 01 日
- *2-83 鳥羽耕史、学術報告「安部公房の生政治／死政治：「事業」と「R62 号の発明」の間で考える」第三回 UCLA トランスパシフィック・ワークショップ「生と死の政治」、日本研究テラサキセンター、歴史学部、2016 年 06 月 03 日
- *2-84 千野拓政・学術報告《东亚都市文化的转折与日本青年文化》世界城市文化上海论坛、上海社会科学院 2016 年 10 月 20 日
- *2-85 千野拓政・学術報告《从三个日记谈中国现代文学的诞生》東アジア人文学フォーラム、清華大学 2016 年 10 月 15 日
- *2-86 千野拓政・学術報告《三个日记与中国和日本的现代文学诞生》现当代中国文学语言问题国际研讨会、复旦大学 2016 年 4 月 30 日
- *2-87 藤本一勇・学術報告“The problem of vision in the philosophy of Nishida Kitaro — with regard to the deconstruction of Jacques Derrida,”東アジア人文学フォーラム（清華大学）2016 年 10 月 15 日
- *2-88 松永美穂、学術報告「メディア対作家？ エルフリーデ・イエリネクの場合」（「信頼社会」研究会）（2016 年 10 月 15 日）
- *2-89 草原真知子、講演 Where Art, Technology, and Pop Culture Meet - Media Art Environment in Japan for Young Artists 2016 年 9 月 8 日 Linz Art University
- 2015 年度
- *2-90 草原真知子、パネリスト Women in Computer Graphics （日本のCGにおける女性の地位について）

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

<p>於 ACM SIGGRAPH (Los Angeles)、2015 年 8 月 11 日</p> <p>*2-91 草原真知子、講演「日本のメディアアート」Danube University (Krems, Austria)2015 年 2015 年 9 月 1 日</p> <p>*2-92 草原真知子、講演「写し絵から幻燈へ」Danube University (Krems, Austria)2015 年 2015 年 9 月 2 日</p> <p>*2-93 鳥羽耕史、講演「坂本九とアメリカ経由のナショナリズム—「脱」政治化する大衆文化」2015 年 6 月 5 日 UCLA</p> <p>*2-94 松永美穂、学術報告 Das eingeklammerte Ich: über das lyrische Ich in Yoko Tawadas japanischem Gedichtband “Die Leiche des Regenschirms und meine Frau” (学会名 Theorie des Subjektes und die Gegenwartsdichtung in Russland und Deutschland ロシアとドイツの現代詩における主体理論)トリア大学 2015 年 11 月 4 日</p> <p>*2-95 千野拓政、講演「我們跑到哪裏去?—東亞諸城市的亞文化與青少年的心理: 動漫, 輕小說, cosplay 以及村上春樹」(台灣大學)2016 年 3 月 25 日</p> <p>*2-96 千野拓政、基調報告「東亞現代文化的轉折与日本当代青年文化」 「東亞青年文化: 現状与未来」國際学術研討会」(於上海大学)2015 年 10 月 31 日</p> <p>*2-97 千野拓政、基調報告「中国詩歌の可能性——從楊鍵說開去」 「楊鍵作品國際学術研討会」(常熟・蘇州沙家浜國際写作中心)2015 年 9 月 18 日</p> <p>*2-98 千野拓政、学術報告「如何建設全球化時代的中文系——早稲田大学中文系教研國際化方案」 「“全球化与中文学科建設的新方向”國際学術研討会」(清華大学)2015 年 5 月 16 日</p> <p>*2-99 藤本一勇、学術報告 “The Condition of Possibility for Japanese subculture,” 第 6 回東アジア人文学フォーラム国立台湾大学 2015 年 12 月</p> <p>2014 年度</p> <p>*2-100 千野拓政、講演《从动员的模式看东亚诸城市的亚文化》(南京师范大学日文系)2014 年 11 月 4 日</p> <p>*2-101 千野拓政、講演《东亚诸城市的亚文化与青少年的心理》(南京师范大学中文系)2014 年 11 月 4 日</p> <p>*2-102 千野拓政、学術報告《总体战与中国现当代文化——从动员的模式刊 20 世纪文化》《第 3 届世界华文文学高峰论坛》(南京大学)2014 年 11 月 2 日</p> <p>*2-103 千野拓政、講演《总体战体制文化与现代文学的起源》(上海大学文化研究系)2014 年 9 月 12 日</p> <p>*2-104 千野拓政、講演《东亚诸城市的青年文化与动员方式的变化》(上海大学文化研究系)2014 年 9 月 10 日</p> <p>*2-105 千野拓政、講演《从离岛问题看文化研究》(上海大学文化研究系)2014 年 9 月 9 日</p> <p>*2-106 千野拓政、講演《村上春树与现代文学的转折》(南开大学中文系)2014 年 6 月 25 日</p> <p>*2-107 藤本一勇、学術報告 “Toward a new Ethics of Technology,” 第 5 回東アジア人文学フォーラム(漢陽大学)2014 年 11 月</p> <p>[グループ 3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって— 特になし</p>
--

<研究成果の公開状況>(上記以外)

<p>シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等</p> <p><既に実施しているもの></p> <p>[グループ 1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証</p> <p>2018 年度</p> <p>1-156.シンポジウム「戯曲を新たに翻訳する意義とは?—シェイクスピアの場合、現代演劇の場合—」(2018 年 1 月 13 日)</p> <p>1-157.シンポジウム「朝河貫一—人文学の形成とその遺産—」(2018 年 7 月 21-22 日)</p> <p>1-158.シンポジウム「シェイクスピアを翻訳する—日・英翻訳の実際」(2019 年 1 月 12 日)</p> <p>2017 年度</p> <p>1-159.ワークショップ「ユーラシア史研究への新しい視角」(2017 年 11 月 25 日)</p> <p>1-160.ワークショップ「日本の近代歴史学をみつめ直す」(2018 年 2 月 10 日)</p> <p>1-161.ワークショップ「朝河貫一の教育活動」(2017 年 7 月 15 日)</p>
--

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- 1-162.ワークショップ「朝河貫一の東アジア研究」(2018年1月27日)
- 1-163.「日本『文』学史」第3回ワークショップ:「『文』から『文学』へ—東アジアの文学を見直す」(2017年7月22日~23日)
- 1-164.シンポジウム「人文学の「他者」としてのカニバリズム」(2017年10月21日)
- 1-165.シンポジウム「戯曲を新たに翻訳する意義とは?—シェイクスピアの場合、現代演劇の場合—」(2018年1月13日)
- 1-166.シンポジウム「朝河貫一—人文学の形成とその遺産—」(2018年7月21-22日)
- 1-167.シンポジウム「シェイクスピアを翻訳する—日・英翻訳の実際」(2019年1月12日)

2016年度

- 1-168.国際シンポジウム「グローバル時代のアートと翻訳」(2017年3月27日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室
- 1-169.ワークショップ“New Perspectives on Studies in the Humanities”Discussion for the possibility of research collaboration of the Humanities between Waseda University and Peking University (参加者: 飯山知保、河野貴美子、根占献一、甚野尚志)(2017年1月8日)北京、北京大学
- 1-170.国際シンポジウム「アジアのシェイクスピア—シェイクスピア受容の多様性—」(2017年1月7日)早稲田大学大隈小講堂
- 1-171.国際シンポジウム「中世・ルネサンス期のイタリア政治思想への新しい視角」(2016年9月17日) <http://iemrs.blog111.fc2.com/blog-entry-99.html> 上に報告要旨を掲載
- 1-172.共催シンポジウム「モンゴル帝国継承国家論の再検討:「モンゴル時代」後のモンゴリア」(2016年7月9日)
- 1-173.国際シンポジウム「記憶と文化」(2016年7月18,19日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室

2015年度

- 1-174.共催ワークショップ:「日本『文』学史」第2回ワークショップ「『文』と人びと—継承と断絶」(2016年3月27日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室
- 1-175.共催シンポジウム「通商・巡礼・亡命:17世紀~20世紀初頭の中央ユーラシアにおける超境界活動」(2016年3月12日)早稲田大学戸山キャンパス 36号館581教室
<http://eurasiaken.sakura.ne.jp> 上の「研究会・講演会」>「2015年度活動報告」に掲載
- 1-176.国際シンポジウム「美術批評とアジア—同時代性と植民地性」(2016年2月6日)早稲田大学戸山キャンパス 32号館1階127教室
- 1-177.ワークショップ “New Perspectives on Studies in the Humanities” International Workshop Organized by Waseda University and National Taiwan University (参加者: 飯山知保、河野貴美子、根占献一、甚野尚志)(2016年1月11日)台北、国立台湾大学
- 1-178.共催シンポジウム「世界史のなかのユダヤ人」(2015年10月3日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室

2014年度

- 1-179.シンポジウム「近世のキリスト教布教と東アジア」(2015年3月4日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室
- 1-180.Prof. Bee Yun(成均館大学、韓国)講演会(2015年3月3日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館16階第10会議室 “Global, Regional, Intercultural: Emergence of New Cultural Geographical Conceptions and the Medieval Studies in Asia”
- 1-181.Prof. Chen Hui Hung(台湾大学、台湾)講演会(2015年3月5日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館16階第10会議室 “Rethinking Chinese Madonna Images and Cult in the Seventeenth Century”
- 1-182.キックオフ・シンポジウム「新しい人文学の地平を求めて—ヨーロッパの学知と東アジアの人文学—」(2014年12月6日)早稲田大学小野記念講堂
- 1-183.シンポジウム「東アジアから1968年をみつめなおす」 記念講演: “1968 and the Contingency of Power.” by Kristin ROSS (NYU) (2014年11月8日)早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール
- 1-184.ワークショップ Marx, History, and Time: Some Reflections(2014年11月10日)早稲田大学 戸山キャンパス 33号館3階 第1会議室
- 1-185.ワークショップ The Political Imaginary of the Paris Commune: Notes on the Cellular Regime of Nationality.(2014年11月11日)早稲田大学 戸山キャンパス 33号館3階 第1会議室

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

[グループ 2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

2018 年度

- *2-108 ワークショップ「1930's~1940's のサムライ・イメージ」(第 10 会議室) (2018 年 10 月 3 日)
- *2-109 国際シンポジウム「20 世紀のサムライ・イメージ」(第 10 会議室) (2018 年 10 月 3 日)
- *2-110 大学院生の国際シンポジウム「东亚最新文化现象与文化研究的趋势」を南開大学、上海大学と共同開催(南開大学) (2018 年 11 月 3 日)
- *2-111 多和田葉子・高瀬アキパフォーマンス「4 分 33 秒」、小野講堂、2018 年 11 月 15 日
- *2-112 多和田葉子・高瀬アキワークショップ「4 分 33 秒」、小野講堂、2018 年 11 月 16 日
- *2-113 シンポジウム「新しい人文学への展望—過去・現在・未来—」(第 1 会議室) (2018 年 12 月 22 日)

2017 年度

- *2-114 マライ・メントライ、講演「教養主義 vs マンガ」(2017 年 7 月 7 日)
- *2-115 国際シンポジウム「東アジアの文学研究を問う」(第 1 会議室) (2017 年 7 月 20 日)
- *2-116 大学院生の国際シンポジウム「新世紀文化研究の挑戦—日本と中国」(第 1 会議室) (2017 年 11 月 3 日)南開大学、上海大学と共同開催
- *2-117 多和田葉子、講演「二日酔いと雄猫」小野講堂、2017 年 8 月 1 日
- *2-118 多和田葉子、高瀬アキ、パフォーマンス「世界の終わり」(小野講堂) (11 月 13 日)
- *2-119 多和田葉子、高瀬アキ、ワークショップ(小野講堂) (2017 年 11 月 14 日)
- *2-120 国際シンポジウム「東アジアの文学・文化研究の国際化とナショナリズムの陥穽」(第 1 会議室) (2017 年 12 月 9 日)
- *2-121 第 9 回東アジア人文学フォーラム「東アジアにおける人文学の復興」(小野講堂) (2017 年 12 月 15 ~17 日)
- *2-122 国際シンポジウム「人文知の明日を見つめて」(36 号館 318 教室) (2018 年 1 月 13 日)
- *2-123 国際シンポジウム「東アジアと世界の「君の名は。」」(第 11 会議室) (2018 年 1 月 20 日)

2016 年度

- *2-124 国際シンポジウム「新世紀:越境する東アジアの文化を問う—カルチュラルスタディーズ・文学・サブカルチャー・そして人々の心—」(第 1 会議室) (2017 年 3 月 18 日、19 日)
<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/09/2835/>
- *2-125 講演会「フランス語漫画におけるサムライ」(早稲田大学戸山キャンパス 33 号館第 1 会議室) フレデリック・トゥルモンド(出版者)、ロイック・ロキャテリ(漫画家) (2016 年 10 月 29 日)
<http://flas.waseda.jp/french/actualites/evenements/2016/10/17/1425>
- *2-126 大学院生の国際シンポジウム“中国与日本:当代文化的跨境与交流”学术工作坊(於南開大学)を南開大学・上海大学と共同開催。2016 年 11 月 2~3 日
- *2-127 東アジア人文フォーラム(台湾:清華大学)に藤本・千野が参加、学術報告を行った(2016 年 10 月)
- *2-128 多和田葉子・高瀬アキ、パフォーマンス「北斎さいさい」(小野講堂)2016 年 11 月 14 日
- *2-129 多和田葉子・高瀬アキ、ワークショップ「言葉と音楽 Vol. 7」(小野講堂)2016 年 11 月 15 日

2015 年度

- *2-130 国際シンポジウム「1980 年代サブカルチャー再訪—アジアを貫く若者文化の起源」(2016 年 1 月 17 日)小野記念講堂
- *2-131『戦後を中心に、日本・ロシア・ドイツの現代叙情詩に関するシンポジウム』をトリーア大学と共同で連続開催(2015 年 10~11 月)神戸大学、トリーア大学、早稲田大学
- *2-132 東アジア人文フォーラム(台湾:国立台湾大学)に藤本が参加、学術報告を行った(2015 年 11 月)
- *2-133 貝澤哉、東浩紀、角田光代、川上未映子、藤井光、ヤマザキマリ、堀江敏幸、市川真人「早稲田文学公開編集委員会 第十次「早稲田文学」季刊化記念講演会」(主催:文学学術院、文芸・ジャーナリズム論系、「早稲田文学」/後援:筑摩書房/早稲田大学戸山キャンパス、38 号館 AV 教室)2015 年 04 月 17 日
- *2-134 “中国和日本:当代文化的跨境与交流”中日青年学人对谈会“を上海大学当代文化研究中心と共同開催。2015 年 11 月 2-3 日(於上海大学)
- *2-135 多和田葉子・高瀬アキ、パフォーマンス「猫の手も借りたい音楽」(小野講堂)2015 年 11 月 11 日
- *2-136 多和田葉子・高瀬アキ、ワークショップ「言葉と音楽 Vol. 6」(小野講堂)2015 年 11 月 12 日

2014 年度

- *2-137 国際学術フォーラム「中日青年学人对谈会“变革时代的技术、媒介与生活方式”」を、上海大学と

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

共同開催。2014年9月9日

*2-138 シンポジウム「ナムジュン・パイクとK-456——阿部修也さんとロボット、アート、文化について語る」の共同開催。(12月19日、早稲田大学)

*2-139 東アジア人文学フォーラム(韓国:漢陽大学)に藤本、李が参加し、藤本が学術報告を行った。

*2-140「デリダ没後10年記念シンポジウム」2014年11月22-24日(小野記念講堂)

*2-141 多和田葉子・高瀬アキ、パフォーマンス「白拍子・黒拍子」(小野講堂)2014年11月12日

*2-142 多和田葉子・高瀬アキ、ワークショップ「言葉と音楽 Vol. 5」(小野講堂)2014年11月13日

[グループ3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって—

2018年度

*3-113.津田左右吉『論語と孔子の思想』元原稿

http://www.waseda.jp/bun-totetsu/totetsu_tsuda.html

2016年度

*3-114.佐竹康扶(研究協力者)「明治期—昭和初期の『早稲田学報』にみる早稲田大学と東アジア」『津田左右吉とアジアの人文学』3号 早稲田大学 2017年3月 115-129頁

*3-115.江永博・趙国(研究協力者)「早稲田大学『校友会会員名簿』留学生関連情報データベース化作業中間報告」『津田左右吉とアジアの人文学』3号 早稲田大学 2017年3月 3-106頁

*3-116.江永博「台湾における戦前『留学生』の史料調査メモ」『津田左右吉とアジアの人文学』3号 早稲田大学 2017年3月 107-114頁

*3-117.渡邊義浩「中国古典と津田左右吉」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—」2017年1月14日 早稲田大学

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

*3-118.鶴見太郎「柳田民俗学と津田左右吉」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—」2017年1月14日 早稲田大学

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

3-119.十重田裕一「小川未明の早稲田大学時代」シンポジウム「小川未明と早稲田の児童文学」小川未明文学賞25周年記念フォーラム 2016年10月10日 早稲田大学

*3-120.十重田裕一・塩野加織・尾崎名津子「岩波茂雄と津田左右吉」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—」2017年1月14日 早稲田大学

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

*3-121.真辺将之「日本近代史研究の動向といくつかの問題」中国・南開大学日本研究院 2016年7月7日

*3-122.ディヴィッド・ルーリー「津田左右吉と神話学—『ヨミの国の物語』を中心に—」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—」2017年1月14日 早稲田大学

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

*3-123.新川登亀男「日本古代史研究の展望」中国・南開大学日本研究院 2016年7月7日

2015年度

*3-124.日本思想史学会大会(早稲田大学、2015年10月18日)特別パネルセッション「津田左右吉と早稲田大学—記憶と記録—」開催。

*3-125.シンポジウム「朝河貫一と日本中世史研究の現在」(2015年12月5日)開催(早稲田大学)。

*3-126.「津田左右吉の学問と歴史認識」(2015年10月24日、早稲田大学)、「津田左右吉と東アジア」(2015年10月26日)早稲田大学にて新川登亀男が講演。

2014年度

*3-127.日韓中共同国際シンポジウム「仏教文明の拡大と転回」を早稲田大学にて開催(2014年10月24-25)基調講演「日本仏教以前の仏教」(新川登亀男)

*3-128.第6回東アジア人文学フォーラム「21世紀と人文学」(韓国漢陽大学校)(2014年11月1日)「日本における中国史の時代区分論争と『古典中国』」を報告(渡邊 義浩)。

*3-129.特別研究集会「津田左右吉の人文学と中国」を早稲田大学で開催(2015年1月17日)劉岳兵(南開大学)、苗壯(遼寧大学)、井上亘(北京大学)、そして渡邊義浩が報告。

<これから実施する予定のもの>

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

14 その他の研究成果等

[グループ 1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

特になし

[グループ 2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

2018 年度

*2-143 鳥羽耕史、対談『青春の設計』から『燃えつきた地図』へ、国際交流基金 2018 年 09 月

映画上映、および UCLA のジョン・リージャー (John Leisure) とのトーク。「安部公房の燃えなかった家 (Abe Kobo's Houses not to be burnt)」という短い発表を含む。

*2-144 貝澤哉、翻訳、ミハイル・バフチン「哲学的な驚き」から 一九四〇—一九七〇年代の草稿断片より、『ゲンロン 9』第一期終刊号、p142 -159、2018 年 10 月

*2-145 松永美穂、対談、酒寄進一「翻訳についてのダブルス・トーク」東京ドイツ文化センター、2018 年 10 月 4 日・11 月 8 日

*2-146 藤本一勇、翻訳、ジャック・デリダ『プシュケーII』岩波書店、全 530 頁、2019 年 3 月

2017 年度

*2-147 鳥羽耕史、書評 リチャード・F・カリチマン『国家を超えて：安部公房の作品における時間、書くこと、そして共同体』日本研究 (56) 218-221 2017 年 10 月

*2-148 鳥羽耕史、エッセイ「開高健とニューヨーク」週刊 NY 生活 (646) 16-16 2017 年 9 月

*2-149 鳥羽耕史、エッセイ「安部公房とニューヨーク」週刊 NY 生活 (639) 16-16 2017 年 7 月

*2-150 貝澤哉、乗松亨平、畠山宗明、東浩紀、座談会「共同討議 ロシア思想を再導入する：バフチン、大衆、ソポールノスチ」、『ゲンロン 6』p22-53、2017 年 9 月

*2-151 貝澤哉、乗松亨平、東浩紀、トークショー「バフチンからポストモダンへ」(『ゲンロン 6 ロシア現代思想 I』刊行記念トークショー) (品川ゲンロンカフェ)、2017 年 09 月 30 日

*2-152 松永美穂、解説と翻訳「小特集・ドイツにおける多和田葉子」p158~173、翻訳「クライスト賞受賞演説」「クロード・レヴィ=ストロースと日本の兔」「つかのまのタベのためのバルコニー席(抄)」『早稲田文学』2017 年初夏号

*2-153 松永美穂、翻訳、多和田葉子「空っぽの瓶」(p21~23)、ノラ・ゴムリンガーの詩 11 編の翻訳と解説 p212~227、「早稲田文学」2017 年女性号

*2-154 松永美穂、パネルディスカッション「翻訳という創造空間」p188~199、『世界』2018 年 3 月号、岩波書店

*2-155 松永美穂、対談、多和田葉子「百年の散歩」、神楽坂 la kagu、2017 年 4 月 6 日

2016 年度

*2-156 千野拓政、インタビュー『中国の「80 後」作家が日本で人気がない理由』《人民网》(日文版)2016 年 11 月 21 日

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

*2-157 千野拓政、インタビュー《千野拓政：中国的 80 后作家日本为啥没人气？》（沈河西整理）《澎湃新闻》web 版 2016 年 11 月 8 日

2015 年度

*2-158 草原真知子、オピニオン「写し絵と幻燈」WASEDA ONLINE、2015 年 6 月 1 日

*2-159 草原真知子、早稲田大学演劇博物館主催「幻燈」展企画アドバイザー、展示資料提供、2015 年

*2-160 パネルディスカッション「新たな村上春樹」モデレーター：松家仁之（慶応義塾大学）、松永美穂（早稲田大学文学学術院）、パネリスト 千野拓政、閻連科、施小煒、加藤典洋、尹相仁、マイケル・エメリック、WASEDA RILAS JOURNAL No.2、p195-206

<http://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2014/10/eac27acdda54ff23141ada52f3cc073e.pdf>

2014 年度

*2-161 藤本一勇、翻訳、ジャック・デリダ『プシュケーI』岩波書店、全 740 頁、2014 年 6 月

[グループ 3] 早稲田大学と東アジア 一人文学の再生に向かって—

特になし

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

付された「留意事項」はなかった。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された「留意事項」はなかった。

<「中間評価時」に付された留意事項>

付された「留意事項」はなかった。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

付された「留意事項」はなかった。

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他(科研費等)	
平成 26 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	67,659	9,449	9,449		965	96	47,700 民間財団助成金等
平成 27 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	60,939	7,499	7,499		2,136		43,805 受託研究等
平成 28 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	62,044	7,499	7,499		1,090		45,956 JSPS事業等
平成 29 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	65,040	8,999	8,999			68	46,974 民間財団助成金等
平成 30 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	61,730	6,900	6,900		2,837	339	44,754 指定寄付等
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	317,412	40,346	40,346	0	7,028	503	229,189
総 計	317,412	40,346	40,346	0	7,028	503	229,189	

法人番号

131100

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
33号館	2014年	13,407	119	645	2,393,890	0	なし
39号館	1992年	4,045	84	645	808229	0	なし

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

法人番号

131100

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	13,450	スキャナー、ハードディスク、文具等	13,450
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	67	郵送代	67
印 刷 製 本 費	694	シンポジウムポスター・チラシ、レジュメ等印刷	694
旅 費 交 通 費	28,649	招聘旅費、海外出張	28,649
報 酬 ・ 委 託 料	5,975	講演謝金、通訳謝金等	5,975
用 品 費 ・ 雑 費 等	12,765	PC、図書、映像記録撮影機材・メディア費等	12,765
計	61,600		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	1,063	研究補助者	1,063
教 育 研 究 経 費 支 出 計	1,063		
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 5 0 0 万 円 未 満 の も の)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	4,994	国際会議室テレビ会議システム	4,994
図 書			
計	4,994		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	11,762	スキャナ、ドットファイル、USBメモリー等	11,762
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	5	書籍発送代	5
印 刷 製 本 費	1,264	シンポジウムチラシ、報告集印刷代	1,264
旅 費 交 通 費	28,522	研究出張、招聘旅費	28,522
報 酬 ・ 委 託 料	3,724	シンポジウム同時通訳業務、講演謝金等	3,724
用 品 費 ・ 雑 費 等	12,808	PC、図書等	12,808
計	58,085		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	2,083	研究補助者	2,083
教 育 研 究 経 費 支 出 計	2,083		
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 5 0 0 万 円 未 満 の も の)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	769	A3スキャナ	769
図 書			
計	769		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

年 度		平成 28 年度		法人番号	131100
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	13,655	研究用文房具等	13,655	研究用文房具・メモリーカード・デジタルカメラ等	
光 熱 水 費					
通 信 運 搬 費	73	研究出張(海外)WIFI通信料等	73	研究出張(海外)WIFI通信料等	
印 刷 製 本 費	1,581	資料複写代等	1,581	資料複写代・シンポジウム配付用印刷代・チラシ印刷代等	
旅 費 交 通 費	22,661	研究出張、招聘旅費等	22,661	研究出張、招聘旅費等	
報 酬 ・ 委 託 料	6,664	シンポジウム招聘者講演謝金等	6,664	シンポジウム招聘者講演謝金・翻訳謝金等	
用 品 費 ・ 雑 費 等	15,229	PC、サーバードメイン利用料等	15,229	謝金海外送金費用、PC、サーバードメイン利用料等	
計	59,863				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	2,103	研究補助者	2,103	時給1500～3000円、年間時間数1086時間等	
教 育 研 究 経 費 支 出 計	2,103				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教 育 研 究 用 機 器 備 品 図 書					
計	0				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費					
計	0				

年 度		平成 29 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	12,562	研究用文房具・メモリーカード等	12,562	研究用文房具・メモリーカード等	
光 熱 水 費					
通 信 運 搬 費	53	研究書類郵送代等	53	研究書類郵送代等	
印 刷 製 本 費	927	成果物印刷費用等	927	成果物印刷費用等	
旅 費 交 通 費	23,683	出張・招聘旅費	23,683	出張・招聘旅費	
報 酬 ・ 委 託 料	9,780	英文校正費用・シンポジウム開催費用等	9,780	英文校正費用・シンポジウム開催費用等	
用 品 費 ・ 雑 費 等	15,311	PC等	15,311	PC等	
計	62,316				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	2,226	研究補助者	2,226	時給1500円、年間8時間等	
教 育 研 究 経 費 支 出 計	2,226				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教 育 研 究 用 機 器 備 品 図 書	500	PC	500	PC	
計	500				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費					
計	0				

		法人番号		131100	
年 度	平成 30 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	13,730	文具・研究成果書籍・外付HDD等	13,730	文具・研究成果書籍・外付HDD等	
光 熱 水 費					
通 信 運 搬 費	223	WiFiレンタル代、研究成果物送付費等	223	WiFiレンタル代、研究成果物送付費等	
印 刷 製 本 費	1,948	抜き刷り製本、書籍印刷製本等	1,948	抜き刷り製本、書籍印刷製本等	
旅 費 交 通 費	14,647	出張、招聘旅費	14,647	出張、招聘旅費	
報 酬 ・ 委 託 料	9,380	シンポジウム・ワークショップ記録作業等	9,380	シンポジウム・ワークショップ記録作業等	
用 品 費 ・ 雑 費 等	18,960	PC等	18,960	PC等	
計	58,888				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人 件 費 支 出 (兼務職員)	2,513	研究補助者	2,513	時給1500円、年間211時間等	
教 育 研 究 経 費 支 出					
計	2,513				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教 育 研 究 用 機 器 備 品	328	PC	328	PC	
図 書					
計	328				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント					
ポスト・ドクター					
研究支援推進経費					
計	0				